

IBM Marketing Platform

バージョン9 リリース1

2013年10月25日

インストール・ガイド

IBM

お願い

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、67ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM Marketing Platform バージョン 9 リリース 1 モディフィケーション 0、および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： IBM Marketing Platform
Version 9 Release 1
October 25, 2013
Installation Guide

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

第1刷 2013.11

© Copyright IBM Corporation 1999, 2013.

目次

第 1 章 インストールの概要	1	Marketing Platform インストールの検証	37
インストール・ロードマップ	1	第 6 章 配置後の Marketing Platform	
インストーラーの機能方法	3	の構成	39
インストールのモード	4	デフォルトのパスワード設定	39
Marketing Platform 資料およびヘルプ	4		
第 2 章 Marketing Platform のインストールの計画	7	第 7 章 Marketing Platform ユーティリ	
前提条件	7	ティーについて	41
Marketing Platform インストール・ワークシート	8	追加マシンでの Marketing Platform ユーティリテ	
IBM EMM 製品のインストール順序	11	ーの実行	43
		追加マシンで Marketing Platform ユーティリテ	
第 3 章 Marketing Platform データ・ソースの作成	13	ーをセットアップする方法	43
Web アプリケーション・サーバーでの JDBC 接続の		configTool ユーティリティー	44
作成	14	alertConfigTool ユーティリティー	48
JDBC ドライバー用の Web アプリケーション・サー		datafilteringScriptTool ユーティリティー	49
バーの構成	14	encryptPasswords ユーティリティー	50
JDBC 接続の作成に関する情報	16	partitionTool ユーティリティー	52
		populateDb ユーティリティー	54
		restoreAccess ユーティリティー	55
		scheduler_console_client ユーティリティー	57
第 4 章 Marketing Platform のインストール	19	第 8 章 Marketing Platform SQL スク	
GUI モードによる Marketing Platform のインストール		リプトについて	59
.	20	すべてのデータの削除 (ManagerSchema_DeleteAll.sql) 59	
インストーラーの実行後に EAR ファイルを作成		データ・フィルターのみの削除	
コンソール・モードを使用した Marketing Platform		(ManagerSchema_PurgeDataFiltering.sql)	60
のインストール	27	システム・テーブルの作成	60
Marketing Platform のサイレント・インストール	28	システム・テーブルの削除	
サンプル応答ファイル	30	(ManagerSchema_DropAll.sql)	61
Marketing Platform のコンポーネント	30		
手動による Marketing Platform システム・テーブル		第 9 章 Marketing Platform のアンイン	
の作成とデータ設定	31	ストール	63
		IBM 技術サポートへの連絡	65
第 5 章 Marketing Platform の配置	33	特記事項	67
WebLogic における Marketing Platform の配置用ガ		商標	69
イドライン	33	プライバシー・ポリシーおよび利用条件の考慮事項	69
WebSphere における Marketing Platform の配置用ガ			
イドライン	34		
クラスター配置の各ノードに関するログの生成	36		

第 1 章 インストールの概要

Marketing Platform のインストールは、Marketing Platform をインストール、構成、および配置すると完了します。「Marketing Platform インストール・ガイド」には、Marketing Platform のインストール、構成、および配置に関する詳細情報が示されています。

『インストール・ロードマップ』セクションを利用すると、「Marketing Platform インストール・ガイド」の使用について幅広く理解することができます。

インストール・ロードマップ

インストール・ロードマップを使用して、Marketing Platform をインストールするために必要な情報を素早く見つけることができます。

表 1 を使用すると、Marketing Platform をインストールするために実行する必要があるタスクをチェックできます。以下の表の「情報」列には、Marketing Platform をインストールするためのタスクについて説明しているトピックへのリンクが記されています。

表 1. Marketing Platform インストール・ロードマップ

トピック	情報
『第 1 章 インストールの概要』	この章には、以下の情報が記載されています。 <ul style="list-style-type: none">• 3 ページの『インストーラーの機能方法』• 4 ページの『インストールのモード』• 4 ページの『Marketing Platform 資料およびヘルプ』
7 ページの『第 2 章 Marketing Platform のインストールの計画』	このトピックには、以下の情報が記載されています。 <ul style="list-style-type: none">• 7 ページの『前提条件』• 8 ページの『Marketing Platform インストール・ワークシート』• 11 ページの『IBM EMM 製品のインストール順序』
13 ページの『第 3 章 Marketing Platform データ・ソースの作成』	このトピックには、以下の情報が記載されています。 <ul style="list-style-type: none">• 14 ページの『Web アプリケーション・サーバーでの JDBC 接続の作成』• 14 ページの『JDBC ドライバー用の Web アプリケーション・サーバーの構成』

表 1. Marketing Platform インストール・ロードマップ (続き)

トピック	情報
19 ページの『第 4 章 Marketing Platform のインストール』	<p>このトピックには、以下の情報が記載されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 20 ページの『GUI モードによる Marketing Platform のインストール』 • 27 ページの『コンソール・モードを使用した Marketing Platform のインストール』 • 28 ページの『Marketing Platform のサイレント・インストール』 • 30 ページの『Marketing Platform のコンポーネント』 • 31 ページの『手動による Marketing Platform システム・テーブルの作成とデータ設定』
33 ページの『第 5 章 Marketing Platform の配置』	<p>このトピックには、以下の情報が記載されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 33 ページの『WebLogic における Marketing Platform の配置用ガイドライン』 • 34 ページの『WebSphere における Marketing Platform の配置用ガイドライン』 • 36 ページの『クラスター配置の各ノードに関するログの生成』 • 37 ページの『Marketing Platform インストールの検証』
39 ページの『第 6 章 配置後の Marketing Platform の構成』	<p>このトピックには、以下の情報が記載されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 39 ページの『デフォルトのパスワード設定』

表 1. Marketing Platform インストール・ロードマップ (続き)

トピック	情報
41 ページの『第 7 章 Marketing Platform ユーティリティーについて』	<p>このトピックには、以下の情報が記載されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 43 ページの『追加マシンでの Marketing Platform ユーティリティーの実行』 • 44 ページの『configTool ユーティリティー』 • 48 ページの『alertConfigTool ユーティリティー』 • 49 ページの『datafilteringScriptTool ユーティリティー』 • 50 ページの『encryptPasswords ユーティリティー』 • 52 ページの『partitionTool ユーティリティー』 • 54 ページの『populateDb ユーティリティー』 • 55 ページの『restoreAccess ユーティリティー』 • 57 ページの『scheduler_console_client ユーティリティー』
59 ページの『第 8 章 Marketing Platform SQL スクリプトについて』	<p>このトピックには、以下の情報が記載されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 59 ページの『すべてのデータの削除 (ManagerSchema_DeleteAll.sql)』 • 60 ページの『データ・フィルターのみの削除 (ManagerSchema_PurgeDataFiltering.sql)』 • 60 ページの『システム・テーブルの作成』 • 61 ページの『システム・テーブルの削除 (ManagerSchema_DropAll.sql)』
63 ページの『第 9 章 Marketing Platform のアンインストール』	<p>このトピックには、Marketing Platform のアンインストール方法が記載されています。</p>

インストーラーの機能方法

IBM® EMM 製品をインストールする際には、スイート・インストーラーと製品インストーラーを使用する必要があります。例えば、Marketing Platform をインストールするには、IBM EMM スイート・インストーラーと IBM Marketing Platform インストーラーを使用する必要があります。

IBM EMM スイート・インストーラーと製品インストーラーを使用するには、その前に、以下のガイドラインに従っていることを確認してください。

- スイート・インストーラーと製品インストーラーが、製品をインストールするコンピュータ上の同じディレクトリーに入っていないければなりません。1つの製品インストーラーの複数バージョンがマスター・インストーラーと同じディレクトリーに存在する場合、マスター・インストーラーは常に製品の最新バージョンをインストール・ウィザードの「IBM EMM 製品」画面に表示します。
- IBM EMM 製品のインストール直後にパッチをインストールすることを予定している場合、スイート・インストーラーや製品インストーラーと同じディレクトリー内にパッチ・インストーラーが入っていることを確認してください。
- IBM EMM インストールのデフォルトの最上位ディレクトリーは、UNIX の場合は /IBM/EMM であり、Windows の場合は C:\IBM\EMM です。ただし、このディレクトリーはインストール時に変更できます。

インストールのモード

IBM EMM スイート・インストーラーは、GUI モード、コンソール・モード、またはサイレント・モード (無人モードとも呼ぶ) のいずれかのモードで実行できます。Marketing Platform をインストールする際は要件に見合ったモードを選択してください。

GUI モード

グラフィカル・ユーザー・インターフェースを使用して Marketing Platform をインストールするには、Windows の GUI モード、または UNIX の X Window System モードを使用します。

コンソール・モード

コマンド・ライン・ウィンドウを使用して Marketing Platform をインストールするには、コンソール・モードを使用します。

注: コンソール・モードでインストーラー画面を正しく表示するには、UTF-8 文字エンコードをサポートするように端末ソフトウェアを構成してください。ANSI などその他の文字エンコードでは、テキストが正しくレンダリングされず、一部の情報が読み取れなくなります。

サイレント・モード

Marketing Platform を複数回インストールするには、サイレント・モード (無人モード) を使用します。サイレント・モードは、インストールに応答ファイルを使用し、インストール・プロセスの間にユーザー入力を必要としません。

Marketing Platform 資料およびヘルプ

IBM Marketing Platform には、ユーザー、管理者、開発者用の資料とヘルプが備わっています。

表2. 入門

タスク	資料
新機能、既知の問題、回避策のリストを表示する	<i>IBM Marketing Platform</i> リリース・ノート

表 2. 入門 (続き)

タスク	資料
Marketing Platform データベースの構造について理解する	<i>IBM Marketing Platform</i> システム・テーブル
Marketing Platform をインストール/アップグレードし、Marketing Platform Web アプリケーションを配置する	以下のいずれかのガイド。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>IBM Marketing Platform</i> インストール・ガイド • <i>IBM Marketing Platform</i> アップグレード・ガイド
Marketing Platform に同梱されている IBM Cognos® レポートを実装する	<i>IBM EMM Reports</i> インストールおよび構成ガイド

表 3. *Marketing Platform* の構成および使用

タスク	資料
<ul style="list-style-type: none"> • 構成とセキュリティーの設定を調整する • ユーザー用に <i>Marketing Platform</i> を準備する • ユーティリティーを実行して保守を実施する 	<i>IBM Marketing Platform</i> 管理者ガイド

表 4. ヘルプの取得

タスク	説明
オンライン・ヘルプを開く	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「ヘルプ」 > 「このページのヘルプ」と選択し、コンテキスト依存のヘルプ・トピックを開きます。 2. ヘルプ・ウィンドウの「ナビゲーションの表示 (Show Navigation)」アイコンをクリックし、詳細ヘルプを表示します。
PDF を入手する	<p>以下のいずれかの方法を使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「ヘルプ」 > 「製品資料」と選択し、<i>Marketing Platform</i> PDF とヘルプにアクセスします。 • 「ヘルプ」 > 「IBM EMM Suite のすべての資料」と選択し、使用可能な資料すべてにアクセスします。
サポートを取得する	http://www.ibm.com/support に移動し、IBM サポート・ポータルにアクセスします。

第 2 章 Marketing Platform のインストールの計画

Marketing Platform のインストールを計画している場合、システムが正しくセットアップされていること、環境が障害に対処できるように構成されていることを確認する必要があります。

前提条件

IBM EMM 製品をインストールまたはアップグレードするには、その前に、ご使用のコンピューターがすべてのソフトウェアおよびハードウェアの前提条件を満たしていることを確認する必要があります。

システム要件

システム要件について詳しくは、「*Recommended Software Environments and Minimum System Requirements*」ガイドを参照してください。

ネットワーク・ドメイン要件

スイートとしてインストールされる IBM EMM 製品は同じネットワーク・ドメインにインストールする必要があります。これは、クロスサイト・スクリプティングで生じ得るセキュリティー・リスクを制限することを目的としたブラウザ制限に準拠するためです。

JVM 要件

スイートに含まれる IBM EMM アプリケーションは、専用 Java™ 仮想マシン (JVM) に配置する必要があります。IBM EMM 製品は、Web アプリケーション・サーバーが使用する JVM をカスタマイズします。JVM に関連するエラーが発生する場合、IBM EMM 製品専用の Oracle WebLogic または WebSphere®ドメインを作成する必要があります。

知識要件

IBM EMM 製品をインストールするには、製品をインストールする環境全般に関する知識が必要です。この知識には、オペレーティング・システム、データベース、および Web アプリケーション・サーバーに関する知識が含まれます。

インターネット・ブラウザ設定

ご使用のインターネット・ブラウザが、以下の設定に準拠していることを確認してください。

- ブラウザーは Web ページをキャッシュに入れてはなりません。
- ブラウザーはポップアップ・ウィンドウをブロックしてはなりません。

アクセス権限

インストール作業を完了するため、以下のネットワーク権限を保持していることを確認してください。

- すべての必要なデータベースに対する管理アクセス権限
- Web アプリケーション・サーバーおよび IBM EMM コンポーネントを実行するために使用するオペレーティング・システム・アカウントの関連ディレクトリーおよびサブディレクトリーに対する読み取りおよび書き込みアクセス権限
- 編集が必要なすべてのファイルに対する書き込み権限
- ファイルを保存する必要があるすべてのディレクトリー (インストール・ディレクトリー、およびアップグレード時にはバックアップ・ディレクトリーなど) に対する書き込み権限。
- インストーラーを実行するための、適切な読み取り/書き込み/実行権限

Web アプリケーション・サーバーの管理パスワードを保持していることを確認してください。

UNIX の場合、IBM 製品のすべてのインストーラー・ファイルはフル権限 (例えば、`rwxr-xr-x`) が必要です。

JAVA_HOME 環境変数

IBM EMM 製品をインストールするコンピューターに **JAVA_HOME** 環境変数が定義されている場合、サポートされる JRE のバージョンがこの変数で指定されていることを確認してください。システム要件については、「*Recommended Software Environments and Minimum System Requirements*」ガイドを参照してください。

JAVA_HOME 環境変数が JRE 1.6 を指していることを確認します。 **JAVA_HOME** 環境変数が正しくない JRE を指している場合、IBM EMM インストーラーを実行する前に、その **JAVA_HOME** 変数をクリアする必要があります。

以下のいずれかの方法により、**JAVA_HOME** 環境変数をクリアできます。

- Windows: コマンド・ウィンドウで、**set JAVA_HOME=** (空のままにする) と入力して、Enter キーを押します。
- UNIX: 端末で、**export JAVA_HOME=** (空のままにする) と入力して、Enter キーを押します。

export JAVA_HOME= (空のままにする)

環境変数をクリアした後、IBM EMM インストーラーは、インストーラーにバンドルされている JRE を使用します。インストールの完了後、この環境変数を再設定できます。

Marketing Platform インストール・ワークシート

Marketing Platform インストール・ワークシートを使用して、Marketing Platform データベースについて、および Marketing Platform のインストールに必要な他の IBM EMM 製品についての情報を収集します。

以下の表を使用して、使用している Marketing Platform システム・テーブルが入っているデータベースについての情報を収集します。

表 5. データベースについての情報

フィールド	メモ
データベース・タイプ	
データベース名	
データベース・アカウント・ユーザー名	
データベース・アカウント・パスワード	
JNDI 名	UnicaPlatformDS
ODBC 名	

IBM Marketing Platform データベースのチェックリスト

各 IBM EMM 製品のインストール・ウィザードは、製品を登録するために Marketing Platform システム・テーブル・データベースと通信できなければなりません。インストーラーを実行するたびに、Marketing Platform システム・テーブル・データベースの以下のデータベース接続情報を入力する必要があります。

- データベース・タイプ
- JDBC 接続 URL
- データベース・ホスト名
- データベース・ポート
- データベース名またはスキーマ ID
- データベース・アカウントのユーザー名とパスワード

Web アプリケーション・サーバー上の IBM Marketing Platform 配置のチェックリスト

Marketing Platform を配置する前に、以下の情報を入手します。

- プロトコル: HTTP または HTTPS (Web アプリケーション・サーバーで SSL が実装されている場合)。
- ホスト: Marketing Platform の配置先となるマシンの名前。
- ポート: Web アプリケーション・サーバーが listen するポート。
- ドメイン・ネーム: IBM 製品がインストールされる各マシンの会社のドメイン。例えば mycompany.com。すべての IBM 製品は同じ会社のドメインにインストールされる必要があります、ドメイン・ネームをすべて小文字で入力する必要があります。

ドメイン・ネーム項目で不一致がある場合、Marketing Platform の機能を使用したり、製品間でナビゲートしたりするときに問題が生じる可能性があります。製品の配置後にドメイン・ネームを変更できます。そうするには、ログインして、「設定」>「構成」ページの製品ナビゲーション・カテゴリーで該当する構成プロパティの値を変更します。

Marketing Platform ユーティリティーを使用可能にするためのチェックリスト

Marketing Platform ユーティリティーの使用を予定している場合、Marketing Platform のインストールを始める前に、以下の JDBC 接続情報を入手してください。

- JRE のパス。デフォルト値は、インストーラーによって IBM インストール・ディレクトリーの下に配置される JRE バージョン 1.7 のパスです。

このデフォルトを受け入れることも、別のパスを指定することもできます。別のパスを指定する場合は Sun JRE バージョン 1.7 を指す必要があります。

- JDBC ドライバー・クラス。これは、インストーラーで指定したデータベース・タイプに基づき、インストーラーによって自動的に提供されます。
- JDBC 接続 URL。インストーラーにより、ホスト名、データベース名、ポートを含む、基本的な構文が提供されます。パラメーターをさらに追加し、URL をカスタマイズできます。
- システム上の JDBC ドライバー・クラスパス。

Web コンポーネントについての情報

Web アプリケーション・サーバーに配置する、Web コンポーネントが含まれる IBM EMM 製品すべてについて以下の情報を取得します。

- Web アプリケーション・サーバーがインストールされているシステムの名前。セットアップする IBM EMM 環境に応じて、1 つ以上の Web アプリケーション・サーバーを持つことが可能です。
- アプリケーション・サーバーが listen するポート。SSL を実装する予定の場合、SSL ポートを獲得します。
- 配置システム用のネットワーク・ドメイン。例えば mycompany.com。

IBM サイト ID

製品インストーラーの「インストールする国」画面にリストされているいずれかの国で IBM EMM 製品をインストールする場合、用意されているスペース部分に IBM サイト ID を入力する必要があります。IBM サイト ID は、以下のいずれかの資料に記されています。

- IBM ウェルカムレター
- 技術サポートのウェルカムレター
- ライセンス証書レター
- ソフトウェア購入時に受け取った他の通信物

お客様による製品の使用状況をより良く把握し、カスタマー・サポートを改善する目的で、IBM はインストールされたソフトウェアによって提供されるデータを使用することがあります。収集されるデータには、個人を特定する情報はまったく含まれません。こうした情報が収集されないようにするには、以下のアクションを実行してください。

1. Marketing Platform のインストール後、Marketing Platform に管理特権を持つユーザーとしてログオンします。

2. 「設定」>「構成」と移動し、「Platform」カテゴリ下の「ページのタグ付けを無効にする」プロパティを「True」に設定します。

IBM EMM 製品のインストール順序

複数の IBM EMM 製品をインストール/アップグレードする場合、特定の順序でインストールする必要があります。

以下の表に、複数の IBM EMM 製品をインストール/アップグレードする場合に従う必要がある順序についてまとめます。

表 6. IBM EMM 製品のインストール/アップグレード順序

対象製品または組み合わせ	インストール/アップグレードの順序
Campaign (eMessage の有無を問わず)	<ol style="list-style-type: none"> 1. Marketing Platform 2. Campaign <p>注: eMessage は、Campaign のインストール時に自動的にインストールされます。しかし、eMessage は、Campaign インストール・プロセスにおいて構成されず、使用可能にもなりません。</p>
Interact	<ol style="list-style-type: none"> 1. Marketing Platform 2. Campaign 3. Interact 設計時環境 4. Interact ランタイム環境 5. Interact Extreme Scale Server <p>Interact 設計時環境のみをインストール/アップグレードする場合には、以下の順序で Interact 設計時環境をインストール/アップグレードする必要があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Marketing Platform 2. Campaign 3. Interact 設計時環境 <p>Interact ランタイム環境のみをインストール/アップグレードする場合には、以下の順序で Interact ランタイム環境をインストール/アップグレードする必要があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Marketing Platform 2. Interact ランタイム環境 <p>Interact Extreme Scale Server のみをインストールする場合、Interact Extreme Scale Server を以下の順序でインストールする必要があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Marketing Platform 2. Interact ランタイム環境 3. Interact Extreme Scale Server

表 6. IBM EMM 製品のインストール/アップグレード順序 (続き)

対象製品または組み合わせ	インストール/アップグレードの順序
Marketing Operations	<ol style="list-style-type: none"> 1. Marketing Platform 2. Marketing Operations <p>注: Marketing Operations と Campaign を統合する場合、Campaign もインストールしなければなりません。これら 2 つの製品のインストール順序は重要ではありません。</p>
Distributed Marketing	<ol style="list-style-type: none"> 1. Marketing Platform 2. Campaign 3. Distributed Marketing
Interaction History	<ol style="list-style-type: none"> 1. Marketing Platform 2. Interaction History
Attribution Modeler	<ol style="list-style-type: none"> 1. Marketing Platform 2. Interaction History 3. Attribution Modeler
Contact Optimization	<ol style="list-style-type: none"> 1. Marketing Platform 2. Campaign 3. Contact Optimization
Opportunity Detection	<ol style="list-style-type: none"> 1. Marketing Platform 2. Opportunity Detection <p>Opportunity Detection を Interact と統合する場合、以下の順序で製品をインストールします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Marketing Platform 2. Campaign 3. Interact 4. Opportunity Detection
IBM SPSS® Modeler Advantage Marketing Edition	<ol style="list-style-type: none"> 1. IBM SPSS Modeler Advantage Marketing Edition

第 3 章 Marketing Platform データ・ソースの作成

Marketing Platform をインストールするには、その前に Marketing Platform データ・ソースを作成する必要があります。

以下のステップを実行し、Marketing Platform のデータ・ソースを準備します。

1. Marketing Platform システム・テーブルのデータベースまたはデータベース・スキーマを作成します。以下の表に、Marketing Platform システム・テーブルのデータベースまたはデータベース・スキーマを作成するときのベンダー固有のガイドラインについて記します。

表 7. データ・ソース作成のためのガイドライン

データベース・ベンダー	ガイドライン
Oracle	環境を開くために自動コミット機能を有効にしてください。Oracle 資料の説明を参照してください。
DB2®	データベース・ページ・サイズを少なくとも 16k (Unicode をサポートする必要がある場合には 32k) に設定します。DB2 資料の説明を参照してください。
SQL サーバー	SQL サーバー認証のみを使用するか、SQL サーバーと Windows 認証を使用します。Marketing Platform では SQL サーバー認証が必要となるためです。必要に応じて、データベース認証に SQL Server が含まれるようデータベース構成を変更してください。また、SQL Server で TCP/IP を必ず有効にしてください。

注: マルチバイト文字 (中国語、韓国語、日本語など) を使用するロケールを使用可能にする予定の場合、それらをサポートするようデータベースが作成されていることを確認してください。

2. システム・ユーザー・アカウントを作成します。システム・ユーザー・アカウントには、以下の権限がなければなりません。
 - CREATE TABLES
 - CREATE VIEWS (レポート用)
 - CREATE SEQUENCE (Oracle のみ)
 - CREATE INDICES
 - ALTER TABLE
 - INSERT
 - UPDATE
 - DELETE

3. ご使用の JDBC ドライバー用に Web アプリケーション・サーバーを構成します。
4. Web アプリケーション・サーバーで JDBC 接続を作成します。

Web アプリケーション・サーバーでの JDBC 接続の作成

Marketing Platform の Web アプリケーションは、JDBC 接続を使ってシステム・テーブル・データベースと通信できる必要があります。Marketing Platform の配置場所となる予定の Web アプリケーション・サーバーで、この JDBC 接続を作成する必要があります。

WebSphere では、このプロセスの際に、ご使用のデータベース・ドライバーのクラスパスを設定してください。

重要: JNDI 名として UnicaPlatformDS を使用する必要があります。この名前は必須であり、8 ページの『Marketing Platform インストール・ワークシート』に記載されています。

注: データベース・ログイン・ユーザーのデフォルト・スキーマとは異なるスキーマで Marketing Platform システム・テーブルが作成されている場合、システム・テーブルへのアクセスに使われる JDBC 接続で、その非デフォルト・スキーマ名を指定する必要があります。

JDBC ドライバー用の Web アプリケーション・サーバーの構成

Marketing Platform では、JDBC 接続をサポートするために適切な JAR ファイルが必要です。Marketing Platform の配置場所となる予定の Web アプリケーション・サーバーのクラスパスに、この JAR ファイルの場所を追加する必要があります。

JDBC ドライバー用の Web アプリケーション・サーバーを構成するには、以下のステップを実行してください。

1. 「推奨されるソフトウェア環境と最小システム要件」ガイドの説明に従って、IBM EMM でサポートされる最新のベンダー提供タイプ 4 JDBC ドライバーを入手します。

JDBC ドライバーの入手後、以下のガイドラインを使用します。

- Marketing Platform を配置する予定のサーバー上にこのドライバーが存在しない場合は、それを入手し、そのサーバーでアンパックします。スペースを含まないパスにドライバーを解凍してください。
- データ・ソース・クライアントのインストール場所であるサーバーからドライバーを入手する場合、Marketing Platform でサポートされる最新バージョンであることを確認してください。

以下の表に、IBM EMM システム・テーブルでサポートされるデータベース用のドライバー・ファイルの名前のリストを示します。

表 8. データベース用のドライバー・ファイル

データベース	ファイル
Oracle	ojdbc6.jar, ojdbc5.jar

表 8. データベース用のドライバー・ファイル (続き)

データベース	ファイル
DB2	db2jcc.jar db2jcc4.jar- V10.1 で必須 db2jcc_license_cu.jar - V9.5 以上では不要
SQL サーバー	SQL サーバーのバージョン 2.0 以降のドライバーを使用します。使用するドライバーの正確なバージョンについては、「推奨されるソフトウェア環境と最小システム要件」を参照してください。 sqljdbc4.jar

- Marketing Platform の配置予定となる Web アプリケーション・サーバーのクラスパスに、ファイル名を含むドライバーへの絶対パスを追加します。

Marketing Platform の配置場所となる予定の Web アプリケーション・サーバーに応じて、以下のガイドラインを使用します。

- サポートされるすべてのバージョンの WebLogic の場合、環境変数が構成されている `WebLogic_domain_directory/bin` ディレクトリー内の `setDomainEnv` スクリプトのクラスパスを設定します。正しいドライバーを Web アプリケーション・サーバーで確実に使用するためには、ドライバー項目をクラスパス・リストの値の最初の項目 (既存のすべての値より前) にする必要があります。以下に例を示します。

UNIX

```
CLASSPATH="/home/oracle/product/11.0.0/jdbc/lib/ojdbc6.jar:
${PRE_CLASSPATH}${CLASSPATHSEP}${WEBLOGIC_CLASSPATH}
${CLASSPATHSEP}${POST_CLASSPATH}${CLASSPATHSEP}${WLP_POST_CLASSPATH}"
export CLASSPATH
```

Windows

```
set CLASSPATH=c:\oracle\jdbc\lib\ojdbc6.jar;%PRE_CLASSPATH%;
%WEBLOGIC_CLASSPATH%;%POST_CLASSPATH%;%WLP_POST_CLASSPATH%
```

- サポートされるすべてのバージョンの WebSphere の場合、クラスパスは、Marketing Platform 用の JDBC プロバイダーをセットアップするときに設定します。
- Marketing Platform インストール・ワークシートにこのデータベース・ドライバー・クラスパスを書き留めておきます。インストーラーの実行時にこのパスを入力する必要があります。
 - 変更内容を有効にするため、Web アプリケーション・サーバーを再始動します。

始動時にコンソール・ログをモニターして、データベース・ドライバーのパスがクラスパスに含まれていることを確認してください。

JDBC 接続の作成に関する情報

JDBC 接続を作成する際に、特定の値が指定されていない場合は、デフォルト値を使用してください。詳しくは、アプリケーション・サーバーの資料を参照してください。

注: データベースでデフォルト・ポート設定を使用していない場合は、必ず正しい値に変更してください。

WebLogic

アプリケーション・サーバーが WebLogic である場合は、以下の値を使用します。

SQLServer

- データベース・ドライバ: Microsoft MS SQL Server Driver (タイプ 4) バージョン: 2008、2008R2
- デフォルト・ポート: 1433
- ドライバ・クラス: com.microsoft.sqlserver.jdbc.SQLServerDriver
- ドライバ URL: jdbc:sqlserver://<データベース・ホスト>:<データベース・ポート>;databaseName=<データベース名>
- プロパティ: user=<データベース・ユーザー名> を追加

Oracle 11 and 11 g

- ドライバ: その他
- デフォルト・ポート: 1521
- ドライバ・クラス: oracle.jdbc.OracleDriver
- ドライバ URL: jdbc:oracle:thin:@<データベース・ホスト>:<データベース・ポート>:<データベース・サービス名>

示されているフォーマットを使用してドライバ URL を入力します。IBM EMM アプリケーションでは、JDBC 接続について Oracle の RAC (Real Application Cluster) 形式を使用できません。

- プロパティ: user=<データベース・ユーザー名> を追加

DB2

- ドライバ: その他
- デフォルト・ポート: 50000
- ドライバ・クラス: com.ibm.db2.jcc.DB2Driver
- ドライバ URL: jdbc:db2://<データベース・ホスト>:<データベース・ポート>/<データベース名>
- プロパティ: user=<データベース・ユーザー名> を追加

WebSphere

アプリケーション・サーバーが WebSphere である場合は、以下の値を使用します。

SQLServer

- ドライバ: 該当なし

- デフォルト・ポート: 1433
- ドライバー・クラス:
com.microsoft.sqlserver.jdbc.SQLServerConnectionPoolDataSource
- ドライバー URL: 該当なし

「データベース・タイプ」フィールドで「ユーザー定義」を選択します。

JDBC プロバイダーとデータ・ソースの作成後、データ・ソースの「**カスタム・プロパティ (Custom Properties)**」に移動して、以下のようにプロパティを追加、変更します。

- serverName=<SQL サーバー名>
- portNumber =<SQL サーバー・ポート番号>
- databaseName=<データベース名>

以下のカスタム・プロパティを追加します。

名前: webSphereDefaultIsolationLevel

値: 1

データ・タイプ: Integer

Oracle 11 and 11 g

- ドライバー: Oracle JDBC Driver
- デフォルト・ポート: 1521
- ドライバー・クラス: oracle.jdbc.OracleDriver
- ドライバー URL: jdbc:oracle:thin:@<データベース・ホスト>:<データベース・ポート>:<データベース・サービス名>

示されているフォーマットを使用してドライバー URL を入力します。IBM EMM アプリケーションでは、JDBC 接続について Oracle の RAC (Real Application Cluster) 形式を使用できません。

DB2

- ドライバー: DB2 Universal JDBC ドライバー・プロバイダー
- デフォルト・ポート: 50000
- ドライバー・クラス: com.ibm.db2.jcc.DB2Driver
- ドライバー URL: jdbc:db2://<データベース・ホスト>:<データベース・ポート>/<データベース名>

第 4 章 Marketing Platform のインストール

Marketing Platform のインストールを開始するには、IBM EMM インストーラーを実行する必要があります。IBM EMM インストーラーは、インストール・プロセスの間に、Marketing Platform インストーラーを開始します。IBM EMM インストーラーと製品インストーラーが同じ場所に保存されていることを確認してください。

IBM EMM スイート・インストーラーを実行するたびに、まず Marketing Platform システム・テーブルに関するデータベース接続情報を入力する必要があります。Marketing Platform インストーラーが開始するときに、Marketing Platform に関する必要な情報を入力する必要があります。

Marketing Platform をインストールした後で、製品の EAR ファイルを作成し、製品のレポート・パッケージをインストールすることができます。EAR ファイルの作成およびレポート・パッケージのインストールは、必須のアクションではありません。

重要: Marketing Platform をインストールする前に、Marketing Platform をインストールするコンピューター上の使用可能な一時スペースが、Marketing Platform インストーラーのサイズの 3 倍を超えていることを確認してください。

インストール・ファイル

インストール・ファイルは、製品のバージョンおよびその製品をインストールする必要のあるオペレーティング・システム (UNIX を除く) に従って命名されます。UNIX の場合、X Window System モード用とコンソール・モード用の異なるインストール・ファイルが存在します。

次の表に、製品のバージョンとオペレーティング・システムに従って命名されたインストール・ファイルの例を示しています。

表9. インストール・ファイル

オペレーティング・システム	インストール・ファイル
Windows: GUI およびコンソール・モード	<i>Product_N.N.N.N_win.exe</i> . ここで、 <i>Product</i> はご使用の製品の名前、 <i>N.N.N.N</i> はその製品のバージョン番号であり、ファイルのインストール先オペレーティング・システムは Windows 64 ビット版でなければなりません。
UNIX: X Window System モード	<i>Product_N.N.N.N_solaris.bin</i> . ここで、 <i>Product</i> はご使用の製品の名前、 <i>N.N.N.N</i> はその製品のバージョン番号です。
UNIX: コンソール・モード	<i>Product_N.N.N.N.bin</i> . ここで、 <i>Product</i> はご使用の製品の名前、 <i>N.N.N.N</i> はその製品のバージョン番号です。すべての UNIX オペレーティング・システムで、このファイルをインストールに使用できます。

GUI モードによる Marketing Platform のインストール

Windows の場合、GUI モードを使用して Marketing Platform をインストールします。UNIX の場合、X Window System モードを使用して Marketing Platform をインストールします。

重要: GUI モードを使用して Marketing Platform のインストールを行う前に、Marketing Platform をインストールするコンピューター上で使用可能な一時スペースが、Marketing Platform インストーラーのサイズの 3 倍を超えていることを確認します。

IBM EMM インストーラーおよび Marketing Platform インストーラーが、Marketing Platform をインストールするコンピューター上の同じディレクトリーに配置されていることを確認します。

以下のアクションを実行し、GUI モードで Marketing Platform をインストールします。

1. IBM EMM インストーラーが保存されているフォルダーに移動し、インストーラーをダブルクリックして開始します。
2. 最初の画面で「OK」をクリックし、「概要」ウィンドウを表示します。
3. インストーラーの指示に従い、「次へ」をクリックします。以下の表にある情報を使用して、EMM インストーラーの各ウィンドウで該当するアクションを実行します。

表 10. IBM EMM インストーラーの GUI

ウィンドウ	説明
概要	これは、IBM EMM Suite インストーラーの最初のウィンドウです。このウィンドウから、Marketing Platform のインストール・ガイドとアップグレード・ガイドを開くことができます。また、インストーラーがインストール・ディレクトリーに保存されている製品のインストール・ガイドとアップグレード・ガイドのリンクも表示できます。 「次へ」をクリックして、次のウィンドウに進みます。

表 10. IBM EMM インストーラーの GUI (続き)

ウィンドウ	説明
応答ファイルの宛先	<p>ご使用の製品の応答ファイルを生成する場合、「応答ファイルを生成する」チェック・ボックスをクリックします。応答ファイルには、製品のインストールに必要な情報が格納されます。応答ファイルは、製品の無人インストールに使用するか、GUI モードでインストーラーを再実行する場合に回答を事前入力するために使用できます。</p> <p>「選択」をクリックして、応答ファイルを格納する場所を参照します。</p> <p>「次へ」をクリックして、次のウィンドウに進みます。</p>
IBM EMM 製品 (IBM EMM Products)	<p>「インストール・セット」リストで、「カスタム」を選択し、インストールする製品を選択します。</p> <p>「インストール・セット」領域では、ご使用のコンピューター上の同じディレクトリーにインストーラーが置かれているすべての製品が表示されます。</p> <p>「説明」フィールドでは、「インストール・セット」領域で選択した製品の説明が表示されます。</p> <p>「次へ」をクリックして、次のウィンドウに進みます。</p>
インストール・ディレクトリー	<p>「インストール・ディレクトリーを指定してください」フィールドで、「選択」をクリックし、製品をインストールするディレクトリーを参照します。</p> <p>インストーラーが格納されているフォルダーに製品をインストールする場合、「デフォルト・フォルダーに復元する (Restore Default Folder)」をクリックします。</p> <p>「次へ」をクリックして、次のウィンドウに進みます。</p>
アプリケーション・サーバーの選択	<p>以下のいずれかのインストール用のアプリケーション・サーバーを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • IBM WebSphere • Oracle WebLogic <p>「次へ」をクリックして、次のウィンドウに進みます。</p>

表 10. IBM EMM インストーラーの GUI (続き)

ウィンドウ	説明
Platform データベースのタイプ	適切な Marketing Platform データベース・タイプを選択します。 「次へ」をクリックして、次のウィンドウに進みます。
Platform データベース接続	ご使用のデータベースについての以下の情報を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> • データベース・ホスト名 • データベース・ポート • データベース名またはシステム ID (SID) • データベース・ユーザー名 • データベース・パスワード 「次へ」をクリックして、次のウィンドウに進みます。
Platform データベース接続 (続き)	JDBC 接続を検討して確認します。 「次へ」をクリックして、次のウィンドウに進みます。必要な場合には、URL を追加パラメーターを使用してカスタマイズできます。
プリインストールのサマリー (Preinstallation Summary)	インストール・プロセスで追加した値を検討して確認します。 「インストール」をクリックして、インストール・プロセスを開始します。 Marketing Platform インストーラーが開きます。

4. 以下の表にある情報を使用して、Marketing Platform インストーラーをナビゲートします。

表 11. IBM Marketing Platform インストーラーの GUI

ウィンドウ	説明
概要	これは、Marketing Platform インストーラーの最初のウィンドウです。このウィンドウから、Marketing Platform のインストール・ガイドとアップグレード・ガイドを開くことができます。 「次へ」をクリックして、次のウィンドウに進みます。
ソフトウェアのご使用条件 (Software Licence Agreement)	使用条件を注意深くお読みください。「印刷」を使用して、使用条件を印刷します。使用条件を受け入れてから、「次へ」をクリックします。

表 11. IBM Marketing Platform インストーラーの GUI (続き)

ウィンドウ	説明
インストールする国	<p>このウィンドウにリストされているいずれかの国で Marketing Platform をインストールする場合、「はい」をクリックします。</p> <p>このウィンドウでリストされていない国で Marketing Platform をインストールする場合、「いいえ」をクリックします。</p> <p>「次へ」をクリックして、次のウィンドウに進みます。</p>
IBM ページのタグ付け (IBM Page Tagging)	<p>「インストールする国」ウィンドウで「はい」を選択した場合にこのウィンドウが表示されます。</p> <p>ページのタグ付けに関する設定を選択し、「次へ」をクリックします。</p>
IBM サイト ID	<p>「インストールする国」ウィンドウで「いいえ」を選択した場合にこのウィンドウが表示されます。</p> <p>IBM サイト ID を入力し、「次へ」をクリックします。</p>
インストール・ディレクトリー	<p>「選択」をクリックし、製品をインストールするディレクトリーを参照するか、デフォルト値を受け入れます。</p> <p>「次へ」をクリックして、次のウィンドウに進みます。</p>
Platform のコンポーネント (Platform Components)	<p>「インストール・セット」リストで、「カスタム」を選択してインストールするコンポーネントを選択します。</p> <p>「インストール・セット」領域では、Marketing Platform コンポーネントすべてが表示されます。</p> <p>「説明」フィールドでは、「インストール・セット」領域で選択した製品の説明が表示されます。</p> <p>「次へ」をクリックして、次のウィンドウに進みます。</p>

表 11. IBM Marketing Platform インストーラーの GUI (続き)

ウィンドウ	説明
Platform 接続の設定 (Platform Connection Settings)	<p>以下のいずれかの接続タイプを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • HTTP • HTTPS <p>以下の情報を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ネットワーク・ドメイン・ネーム (example.com など) • ホスト名 • ポート番号 <p>重要: IBM EMM 製品が分散環境にインストールされている場合、スイートに属するすべてのアプリケーションのナビゲーション URL では IP アドレスではなく、マシン名を使用する必要があります。</p> <p>「次へ」をクリックして、次のウィンドウに進みます。</p>
Platform データベースのセットアップ	<p>Marketing Platform データベースをセットアップするための以下のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 自動データベース・セットアップ • 手動データベース・セットアップ <p>「手動データベース・セットアップ」を選択し、Marketing Platform 構成を実行する場合には、「Platform の構成の実行」チェックボックスを使用します。</p> <p>「手動データベース・セットアップ」を選択する場合、インストールの完了後、Marketing Platform システム・テーブルにデータ設定する必要があります。</p> <p>「次へ」をクリックして、次のウィンドウに進みます。</p>
Platform ユーティリティ設定	<p>Marketing Platform コマンド行ツールを使用する予定の場合、以下の情報を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • JDBC ドライバー・クラス • JDBC 接続 URL • JDBC ドライバー・クラスパス <p>「次へ」をクリックして、次のウィンドウに進みます。</p>
Platform ユーティリティ設定 (続き)	<p>「選択」をクリックし、Java™ がインストールされているディレクトリーを指定します。</p> <p>「次へ」をクリックして、次のウィンドウに進みます。</p>

表 11. IBM Marketing Platform インストーラーの GUI (続き)

ウィンドウ	説明
デフォルト・ロケール	<p>インストールのデフォルト・ロケールを選択します。デフォルトでは、「英語」が選択されます。</p> <p>「次へ」をクリックして、次のウィンドウに進みます。</p>
IBM Cognos 10 BI の場所	<p>「Platform のコンポーネント (Platform Components)」ウィンドウで Cognos レポートのインストールを選択した場合にこのウィンドウが表示されます。</p> <p>「選択」をクリックし、IBM Cognos 10 BI がインストールされているディレクトリーを指定します。</p> <p>「次へ」をクリックして、次のウィンドウに進みます。</p>
プリインストールのサマリー (Preinstallation Summary)	<p>インストール・プロセスで追加した値を検討して確認します。</p> <p>「インストール」をクリックして、インストール・プロセスを開始します。</p> <p>Marketing Platform インストーラーが開きます。</p>
インストール完了	<p>「完了」をクリックして Marketing Platform インストーラーを閉じ、IBM EMM インストーラーに戻ります。</p>

5. EMM インストーラーの指示に従い、Marketing Platform のインストールを完了します。以下の表にある情報を使用して、EMM インストーラーの各ウィンドウで該当するアクションを実行します。

表 12. EMM インストーラーの GUI

ウィンドウ	説明
デプロイメント EAR ファイル	<p>IBM EMM 製品を配置するためのエンタープライズ・アーカイブ (EAR) ファイルを作成するかどうかを指定します。</p> <p>「次へ」をクリックして、次のウィンドウに進みます。</p>
EAR ファイルのパッケージ化	<p>「デプロイメント EAR ファイル」ウィンドウで「デプロイメントのために EAR ファイルを作成します」を選択すると、このウィンドウが表示されます。</p> <p>EAR ファイルにパッケージ化するアプリケーションを選択します。</p>

表 12. EMM インストーラーの GUI (続き)

ウィンドウ	説明
EAR ファイルの詳細	<p>EAR ファイルについての以下の情報を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> エンタープライズ・アプリケーション ID 表示名 説明 EAR ファイル・パス
EAR ファイルの詳細 (続き)	<p>追加の EAR ファイルの作成に関して、「はい」または「いいえ」を選択します。「はい」を選択した場合、新しい EAR ファイルについての詳細情報を入力する必要があります。</p> <p>「次へ」をクリックして、製品のインストールを実行します。</p>
デプロイメント EAR ファイル	<p>IBM EMM 製品を配置するために別の EAR ファイルを作成するかどうかを指定します。</p> <p>「次へ」をクリックして、次のウィンドウに進みます。</p>
インストール完了	<p>このウィンドウには、インストールで作成したログ・ファイルの場所が表示されます。インストーラーを終了すると、このログ・ファイルを表示できます。</p> <p>インストールの詳細を変更する場合には、「戻る」をクリックします。</p> <p>「完了」をクリックして、IBM EMM インストーラーを閉じます。</p>

インストーラーの実行後に EAR ファイルを作成

IBM EMM 製品のインストール後に、EAR ファイルを作成します。これは、製品のさまざまな組み合わせを EAR ファイルに収めるために行います。

注: コマンド・ラインから、コンソール・モードでインストーラーを実行します。

IBM EMM 製品のインストール後に EAR ファイルを作成するには、以下の手順に従います。

1. インストーラーをコンソール・モードで実行するのが初めての場合は、インストールされた製品ごとに、インストーラーの `.properties` ファイルのバックアップ・コピーを作成します。

IBM 製品インストーラーはそれぞれ、`.properties` 拡張子の付いた応答ファイルを 1 つ以上作成します。これらのファイルは、インストーラーと同じディレクトリーに配置されます。`.properties` 拡張子の付いたファイルをすべてバックアップしてください。これらのファイルとしては、

installer_productversion.properties ファイルおよび IBM インストーラー自体のためのファイル (名前は installer.properties) があります。

インストーラーを不在モードで実行することを計画している場合は、元の .properties ファイルをバックアップする必要があります。これは、インストーラーを不在モードで実行すると、これらのファイルがクリアされるためです。EAR ファイルを作成するには、初期インストール時にインストーラーが .properties ファイルに書き込む情報が必要です。

2. コマンド・ウィンドウを開き、ディレクトリーをインストーラーのあるディレクトリーに移動します。
3. 次のオプションを指定して、インストーラー実行可能ファイルを実行します。

```
-DUNICA_GOTO_CREATEEARFILE=TRUE
```

UNIX タイプのシステムでは、.sh ファイルではなく .bin ファイルを実行します。

インストーラー・ウィザードが実行されます。

4. ウィザードの指示に従います。
5. 追加の EAR ファイルを作成する前に、コンソール・モードで初めて実行する前に作成したバックアップで、.properties ファイルを上書きしてください。

コンソール・モードを使用した Marketing Platform のインストール

コマンド・ライン・ウィンドウを使用して Marketing Platform をインストールするには、コンソール・モードを使用します。コマンド・ライン・ウィンドウでは、各種オプションを選択して、インストールする製品の選択や、インストール用のホーム・ディレクトリーの選択などのタスクを実行できます。

Marketing Platform をインストールする前に、必ず以下の要素を構成しておいてください。

- アプリケーション・サーバー・プロファイル
- データベース

コンソール・モードでインストーラー画面を正しく表示するには、UTF-8 文字エンコードをサポートするように端末ソフトウェアを構成してください。ANSI などその他の文字エンコードでは、テキストが正しくレンダリングされず、一部の情報が読み取れなくなります。

コマンド・ライン・ウィンドウを使用して以下のアクションを実行し、Marketing Platform をインストールします。

1. コマンド・ライン・プロンプト・ウィンドウを開いて、IBM EMM インストーラーと、Marketing Platform インストーラーを保存したディレクトリーにナビゲートします。
2. 以下のアクションのいずれか 1 つを実行します。
 - Windows の場合、次のコマンドを入力します。

```
ibm_emm_installer_full_name -i console
```

例: `IBM_EMM_Installer_9.1.0.0 -i console`

- Unix の場合、`ibm_emm_installer_full_name.sh` ファイルを呼び出します。

例: `IBM_EMM_Installer_9.1.0.0.sh`

3. コマンド・ライン・プロンプトに表示される指示に従ってください。コマンド・ライン・プロンプトでオプションを選択しなければならないときは、以下のガイドラインを使用します。
 - デフォルト・オプションはシンボル `[X]` で定義されます。
 - オプションを選択またはクリアするには、そのオプションに定義されている番号を入力して、`Enter` キーを押します。

例えば、インストール可能なコンポーネントが以下のリストに表示されていると想定します。

- 1 `[X]` Marketing Platform
- 2 `[X]` Campaign
- 3 Contact Optimization
- 4 Interaction History

Interaction History をインストールし、Campaign をインストールしない場合、コマンド `2,4` を入力します。

すると、選択したオプションが以下のリストのように表示されます。

- 1 `[X]` Marketing Platform
- 2 Campaign
- 3 Contact Optimization
- 4 `[X]` Interaction History

注: Marketing Platform のオプションは、既にインストール済みである場合を除いて、クリアしないでください。

4. IBM EMM インストーラーは、インストール・プロセスの間に、Marketing Platform インストーラーを起動します。Marketing Platform インストーラーのコマンド・ライン・プロンプト・ウィンドウの指示に従ってください。
5. Marketing Platform インストーラーのコマンド・ライン・プロンプト・ウィンドウで `quit` を入力すると、ウィンドウはシャットダウンします。IBM EMM インストーラーのコマンド・ライン・プロンプト・ウィンドウの指示に従って、Marketing Platform のインストールを完了します。

注: インストールの間にエラーが発生した場合、ログ・ファイルが生成されます。このログ・ファイルを表示するには、インストーラーを終了する必要があります。

Marketing Platform のサイレント・インストール

Marketing Platform を複数回インストールするには、無人モード (サイレント・モード) を使用します。

Marketing Platform をインストールする前に、必ず以下の要素を構成しておいてください。

- アプリケーション・サーバー・プロファイル
- データベース

サイレント・モードを使用して Marketing Platform をインストールするときには、インストール中に必要な情報を取得するために応答ファイルが使用されます。製品をサイレント・インストールするには、応答ファイルを作成する必要があります。応答ファイルは、以下のいずれかの方法によって作成できます。

- 応答ファイル作成時のテンプレートとして、サンプル応答ファイルを使用します。サンプル応答ファイルは、ご使用の製品インストーラーの ResponseFiles 圧縮アーカイブに含まれています。サンプル応答ファイルについて詳しくは、30 ページの『サンプル応答ファイル』を参照してください。
- 製品をサイレント・モードでインストールするには、その前に、GUI (Windows) モード、X Window System (UNIX) モード、またはコンソール・モードで製品インストーラーを実行します。IBM EMM スイート・インストーラー用の応答ファイルが 1 つ、製品インストーラー用の応答ファイルが 1 つ以上作成されます。ファイルは、ユーザーの指定したディレクトリー内に作成されます。

重要: セキュリティー上の理由から、インストーラーはデータベース・パスワードを応答ファイルに保存しません。応答ファイルを作成するときは、各応答ファイルを編集してデータベース・パスワードを入力する必要があります。各応答ファイルを開いて PASSWORD を検索し、この応答ファイルの編集を行う必要のある場所を見つけます。

サイレント・モードで実行するとき、インストーラーは順番に以下のディレクトリーで応答ファイルを探します。

- IBM EMM インストーラーが保存されているディレクトリー内。
- 製品をインストールするユーザーのホーム・ディレクトリー内。

すべての応答ファイルを、必ず同じディレクトリーに入れてください。コマンド・ラインで引数を追加することにより、応答ファイルの読み取り場所となるパスを変更できます。例: **-DUNICA_REPLAY_READ_DIR="myDirPath" -f myDirPath/installer.properties**

Windows の場合は、次のコマンドを使用します。

- **IBM_EMM_installer_full_name -i silent**

以下に例を示します。

IBM_EMM_Installer_9.1.0.0_win.exe -i silent

UNIX または Linux の場合は、次のコマンドを使用します。

- **IBM_EMM_installer_full_name_operating_system.bin -i silent**

以下に例を示します。

IBM_EMM_Installer_9.1.0_unix.bin -i silent

サンプル応答ファイル

Marketing Platform のサイレント・インストールをセットアップするため、応答ファイルを作成する必要があります。応答ファイルを作成するには、サンプル応答ファイルを利用できます。サンプル応答ファイルは、インストーラーの ResponseFiles 圧縮アーカイブに含まれています。

次の表には、サンプル応答ファイルに関する情報が示されています。

表 13. サンプル応答ファイルの説明

サンプル応答ファイル	説明
installer.properties	IBM EMM マスター・インストーラーのサンプル応答ファイル。
installer_product initials and product version number.properties	Marketing Platform インストーラーのサンプル応答ファイル。 例えば、installer_umpr.n.n.n.properties (ここで、n.n.n.n はバージョン番号) は、Marketing Platform インストーラーの応答ファイルです。
installer_report pack initials, product initials, and version number.properties	レポート・パック・インストーラーのサンプル応答ファイル。 例えば、installer_urpc.properties は、Campaign レポート・パック・インストーラーの応答ファイルです。

Marketing Platform のコンポーネント

Marketing Platform アプリケーションには、IBM 共通ナビゲーション、レポート、ユーザー管理、セキュリティー、スケジューリング、および構成管理の各機能が含まれています。それぞれの IBM EMM 環境で、Marketing Platform を一度インストールして配置する必要があります。

追加のコンピューター上で Marketing Platform ユーティリティーを使用するには、ユーティリティーと Web アプリケーションを対象の追加コンピューターにインストールする必要があります。ユーティリティーは Web アプリケーション内の jar ファイルを使用するため、このようにする必要があります。ただし、ユーティリティーを使用するために Marketing Platform をインストールする場合、Marketing Platform を再び配置する必要はなく、追加の Marketing Platform システム・テーブルを作成する必要もありません。

以下の表に、Marketing Platform のインストール時に選択できるコンポーネントを示します。

表 14. Marketing Platform のコンポーネント

コンポーネント	説明
Marketing Platform ユーティリティ	これらのコマンド・ライン・ツールを使用すると、コマンド・ラインから Marketing Platform システム・テーブル・データベースを操作して、構成のインポート/エクスポート、パーティションとデータ・フィルターの作成、platform_admin ユーザーの復元を行うことができます。 Marketing Platform ユーティリティを使用可能にするすべてのマシン上にこれをインストールしてください。
Marketing Platform Web アプリケーション	この Web アプリケーションは、IBM EMM 用の一般的なユーザー・インターフェース、セキュリティ、および構成管理を提供します。 Marketing Platform の配置場所となる予定のマシンにこれをインストールしてください。
Reports for IBM Cognos BI	IBM Cognos 用のレポート統合コンポーネントです。Cognos システム上にのみ、このコンポーネントをインストールしてください。

手動による Marketing Platform システム・テーブルの作成とデータ設定

Marketing Platform をインストールするとき、インストーラーによって Marketing Platform システム・テーブルが自動的に作成される場所についてのオプションを選択できます。または、手動でシステム・テーブルを作成することもできます。

以下のタスクを実行し、システム・テーブルを手動で作成してデータ設定します。

- 20 ページの『GUI モードによる Marketing Platform のインストール』の説明と同じようにして IBM インストーラーを実行します。ただし Marketing Platform インストーラーが起動される時に以下のように選択する点が異なります。
 - 「**手動データベース・セットアップ**」を選択します。
 - 「**Platform の構成の実行**」チェック・ボックスを選択解除します。
- インストーラーが完了した後、60 ページの『システム・テーブルの作成』の説明に従い、データベース・タイプに対応する以下の SQL スクリプトを Marketing Platform システム・テーブル・データベースに対して実行することで、手動でシステム・テーブルを作成します。

ここに示す順序でスクリプトを実行してください。

- ManagerSchema_DBType.sql

マルチバイト文字 (例えば中国語、日本語、韓国語) のサポートを計画している場合、データベースが DB2 であれば ManagerSchema_DB2_unicode.sql スクリプトを使用します。

- ManagerSchema__DBType_CeateFKConstraints.sql
 - active_portlets.sql
 - quartz_DBType.sql
- IBM インストーラーを再び実行し、Marketing Platform インストーラーが起動されたときに以下を選択します。
 - 「**手動データベース・セットアップ**」を選択します。
 - 「**Platform の構成の実行**」チェック・ボックスを選択します。

これにより、システム・テーブルにデフォルト・データが追加されます。

第 5 章 Marketing Platform の配置

Marketing Platform を Web アプリケーション・サーバーに配置するときには一連のガイドラインに従う必要があります。Marketing Platform の配置については、WebLogic と WebSphere ではガイドラインの集合が異なります。

IBM インストーラーを実行した場合、以下のいずれかのアクションを完了しました。

- Marketing Platform を EAR ファイルに含めました。
- Marketing Platform の WAR ファイルを作成しました (unica.war)。

他の製品を EAR ファイルに含めた場合、EAR ファイルに含まれる製品の個々のインストール・ガイドに記されている配置ガイドラインに従う必要があります。

ここでは、読者が Web アプリケーション・サーバーの操作方法を知っていることを想定します。管理コンソールのナビゲーションなど、詳細については、Web アプリケーション・サーバーの資料を参照してください。

WebLogic における Marketing Platform の配置用ガイドライン

WebLogic アプリケーションに Marketing Platform を配置するときには一連のガイドラインに従う必要があります。

Marketing Platform 製品をサポート対象バージョンの WebLogic に配置する場合、以下のガイドラインを使用してください。

- IBM EMM 製品により、WebLogic が使用するJava 仮想マシン (JVM) がカスタマイズされます。JVM 関連のエラーが生じる場合、IBM EMM 製品専用の WebLogic インスタンスを作成できます。
- startWebLogic.cmd ファイルを開き、**JAVA_VENDOR** 変数に関して、使用している WebLogic ドメイン用に選択された SDK が Sun SDK であることを確認します。

JAVA_VENDOR 変数は Sun に設定されていなければなりません (**JAVA_VENDOR=Sun**)。 **JAVA_VENDOR** 変数が **JAVA_VENDOR** に設定されている場合、JRockit が選択されていることを意味します。JRockit はサポートされていないため、選択されている SDK を変更しなければなりません。選択されている SDK を変更するには、BEA WebLogic の資料を参照してください。

- Marketing Platform を Web アプリケーションとして配置します。
- IIS プラグインを使用するよう WebLogic を構成する場合は、BEA WebLogic の資料を確認してください。
- インストール済み環境で非 ASCII 文字をサポートする必要がある場合 (例えば、ポルトガル語や、マルチバイト文字を必要とするロケールの場合) には以下のタスクを実行してください。

1. WebLogic ドメイン・ディレクトリーの下に bin ディレクトリーにある `setDomainEnv` スクリプトを編集し、`-Dfile.encoding=UTF-8` を `JAVA_VENDOR` に追加します。
 2. WebLogic コンソールで、ホーム・ページの「ドメイン」リンクをクリックします。
 3. 「Web アプリケーション」タブで、「実際のパスのアーカイブを有効にする (Archived Real Path Enabled)」チェック・ボックスにチェック・マークを付けます。
 4. WebLogic を再始動します。
 5. EAR ファイルまたは `unica.war` ファイルを配置して開始します。
- 実稼働環境での配置の場合、JVM メモリー・ヒープ・サイズ・パラメーターを 1024 に設定します。そのためには、次の行を `setDomainEnv` スクリプトに追加します。

```
Set MEM_ARGS=-Xms1024m -Xmx1024m -XX:MaxPermSize=256m
```

WebSphere における Marketing Platform の配置用ガイドライン

WebSphere 上に Marketing Platform を配置するときには一連のガイドラインに従う必要があります。

WebSphere のバージョンが、「IBM Enterprise 製品の推奨されるソフトウェア環境と最小システム要件」資料に記載されている要件 (必要なフィックスパックを含む) を満たしていることを確認します。Marketing Platform を WebSphere に配置する場合、以下のガイドラインを使用してください。

- 以下のカスタム・プロパティをサーバーに指定してください。
 - 名前: `com.ibm.ws.webcontainer.invokefilterscompatibility`
 - 値: `true`
- WebSphere でのカスタム・プロパティの設定については、<http://www-01.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg21284395> の説明を参照してください。
- IBM EAR ファイルまたは `unica.war` ファイルを、エンタープライズ・アプリケーションとして配置します。EAR ファイルまたは `unica.war` ファイルを配置する場合、以下の情報に従って、JSP コンパイラーの JDK ソース・レベルを Java 16 または 17 に設定し、JSP ページをプリコンパイルしたことを確認します。
 - WAR ファイルをブラウズして選択する形式で、「すべてのインストール・オプションとパラメーターを表示」を選択すると、「インストール・オプションの選択」ウィザードが実行されます。
 - 「インストール・オプションの選択」ウィザードのステップ 1 で、「JavaServer Pages ファイルのプリコンパイル」を選択します。
 - 「インストール・オプションの選択」ウィザードのステップ 3 で、「JDK ソース・レベル」が 16 または 17 に設定されていることを確認します。

EAR を配置した場合は、それぞれの WAR ファイルについて「JDK ソース・レベル」を設定してください。

- 「インストール・オプションの選択」ウィザードのステップ 8 で、突き合わせるターゲット・リソースとして「UnicaPlatformDS」を選択します。

コンテキスト・ルートは it /unica (すべて小文字) にする必要があります。

- サーバーの「Web コンテナ設定」>「Web コンテナ」>「セッション管理」セクションで、Cookie を有効にします。配置される各アプリケーションの異なるセッション Cookie 名を指定します。以下のいずれかの手順を使用して、Cookie 名を指定します。
 - 「セッション管理」の下にある「セッション管理のオーバーライド」チェック・ボックスにチェック・マークを付けます。

IBM EMM 製品について別個の WAR ファイルを配置した場合、WebSphere コンソールで、サーバーの「アプリケーション」>「エンタープライズ・アプリケーション」> [配置するアプリケーション] >「セッション管理」>「Cookies を使用可能にする」>「Cookie 名」セッションに固有のセッション Cookie 名を指定します。

IBM EMM 製品について EAR ファイルを配置した場合、WebSphere コンソールで、サーバーの「アプリケーション」>「エンタープライズ・アプリケーション」> [配置するアプリケーション] >「モジュール管理 (Module Management)」> [配置するモジュール] >「セッション管理」>「Cookies を使用可能にする」>「Cookie 名」セクションに固有のセッション Cookie 名を指定します。

- インストール済み環境で非 ASCII 文字をサポートする必要がある場合 (例えばポルトガル語や、マルチバイト文字を必要とするロケールの場合)、サーバー・レベルで次の引数を「汎用 JVM 引数」に追加します。

-Dfile.encoding=UTF-8

-Dclient.encoding.override=UTF-8

ナビゲーションのヒント: 「サーバー」>「アプリケーション・サーバー」>「Java およびプロセス管理」>「プロセス定義」>「Java 仮想マシン」>「汎用 JVM 引数」を選択します。詳しくは、WebSphere の資料を参照してください。

- サーバーの「アプリケーション」>「エンタープライズ・アプリケーション」セクションで、配置した EAR ファイルまたは WAR ファイルを選択し、「クラス・ロードおよび更新の検出」を選択して、以下のプロパティを指定します。
 - WAR ファイルを配置する場合:
 - 「クラス・ローダーの順序」では、「最初にローカル・クラス・ローダーをロードしたクラス (親は最後)」を選択します。
 - 「WAR クラス・ローダー・ポリシー」では、「アプリケーションの単一クラス・ローダー」を選択します。
 - EAR ファイルを配置する場合:
 - 「クラス・ローダーの順序」では、「最初にローカル・クラス・ローダーをロードしたクラス (親は最後)」を選択します。
 - 「WAR クラス・ローダー・ポリシー」では、「アプリケーションの各 War ファイルのクラス・ローダー」を選択します。

- 配置を開始します。JVM バージョン 1.6 以降を使用するよう WebSphere インスタンスが構成されている場合、タイム・ゾーン・データベースの問題を回避するために、以下のステップを実行します。

1. WebSphere を停止します。
2. IBM Time Zone Update Utility for Java (JTZU) を、以下の IBM Web サイトからダウンロードします。

<http://www.ibm.com/developerworks/java/jdk/dst/index.html>

3. IBM (JTZU) で示される手順に従って、JVM 内のタイム・ゾーン・データを更新します。
 4. WebSphere を再始動します。
- WAS 8.5 の場合、以下の追加設定が必要です。

WebSphere エンタープライズ・アプリケーションで、**ご使用のアプリケーション** > 「モジュールの管理」 > **ご使用のアプリケーション** > 「クラス・ローダー順序」 > 「最初にローカル・クラス・ローダーをロードしたクラス (親は最後)」と選択します。

- アプリケーションの基本機能に関して推奨されている最小ヒープ・サイズは 512 で、推奨されている最大ヒープ・サイズは 1024 です。

以下のタスクを実行し、ヒープ・サイズを指定します。

1. WebSphere エンタープライズ・アプリケーションで、「サーバー」 > 「WebSphere Application Server」 > 「server1」 > 「サーバー・インフラストラクチャー」 > 「Java およびプロセス管理」 > 「プロセス定義」 > 「Java 仮想マシン」と選択します。
2. 初期ヒープ・サイズを 512 に設定します。
3. 最大ヒープ・サイズを 1024 に設定します。

サイズ変更について詳しくは、WebSphere の資料を参照してください。

クラスター配置の各ノードに関するログの生成

Marketing Platform を配置するノードごとにログを生成できます。クラスター内のノードごとに異なるロギング・レベルを指定できます。

以下のいずれかのアクションを実行して、Marketing Platform クラスター配置の各ノードに関してログを生成します。

- クラスターのすべてのノードで Marketing Platform がインストールされている場所を共有します。この場所を共有するには、Marketing Platform を、すべてのノードからアクセス可能な共有ドライブにインストールする必要があります。以下のアクションを実行して、この場所を共有します。

1. 各ノードに JVM パラメーターを追加します。-DPLATFORM_LOG4J_PROPERTIES_FILE=log4j_node1.properties というコマンドを使用して、JVM パラメーターを追加します。ここで、log4j_node1.properties は、log4j.properties ファイルのコピーです。プロパティ・ファイルの名前は変更できます。

2. 次のコマンドを使用して、JVM パラメーターを設定します。
log4j.appender.System.File=Log_File_Name 例:
log4j.appender.System.File=platform_node1.log
 3. クラスター内のすべてのノードに関してステップ 1 と 2 を実行します。ログ・ファイル名は、各ノードに基づいて生成されるファイルを識別するために必ず別の名前にしてください。
 4. クラスターを再始動します。すべてのログ・ファイルが、
PLATFORM_HOME/Platform/logs ディレクトリーに作成されます。
- Marketing Platform 配置がクラスターのすべてのノードで共有されていない場合には、**DUNICA_PLATFORM_HOME** ディレクトリーを、ログが生成される場所を指す Java パラメーターとして使用してください。以下のアクションを実行し、Java パラメーターを変更してクラスター内の各ノードのログ・ファイルを生成します。
 1. 次のコマンドを使用して、Java パラメーターを指定します。**-DUNICA_PLATFORM_HOME=path_where_log_files_are_generated** 例:
DUNICA_PLATFORM_HOME=/opt/Platform
 2. **conf** および **log** というディレクトリーを、ログ・ファイルが生成される場所に作成します。
 3. ログ・ディレクトリーに対する書き込み権限を指定します。
 4. **conf** ディレクトリーに **log4j.properties** ファイルをコピーします。
log4j.properties は、Marketing Platform インストール・ディレクトリーにあります。
 5. クラスターを再始動します。
 - Marketing Platform インストール・ディレクトリー構造を、クラスターのすべてのノードに複製します。以下のアクションを実行し、ディレクトリー構造を複製します。
 1. **PLATFORM_HOME/Platform/conf/** ディレクトリーまで、各ノードに同じディレクトリー構造を作成します。
 2. **logs** ディレクトリーを **PLATFORM_HOME/Platform** ディレクトリー内に作成し、**logs** ディレクトリーに対する書き込み権限を指定します。
 3. **conf** ディレクトリーに **log4j.properties** ファイルをコピーします。
log4j.properties は、Marketing Platform インストール・ディレクトリーにあります。**DUNICA_PLATFORM_HOME** を Java パラメーターとして追加する必要はありません。

Marketing Platform インストールの検証

Marketing Platform のインストールおよび配置後、Marketing Platform のインストールと配置にエラーがないことを検証する必要があります。検証後に、Marketing Platform インストール済み環境を構成できます。

以下のタスクを実行し、Marketing Platform インストールを検証します。

1. サポート対象の Web ブラウザーで IBM EMM URL にアクセスします。

Marketing Platform のインストール時にドメインを入力した場合、URL は次のとおりです。ここで、*host* は Marketing Platform がインストールされているマシ

ンで、*domain.com* はホスト・マシンがあるドメイン、*port* は Web アプリケーション・サーバーが *listen* するポート番号です。

`http://host.domain.com:port/unica`

2. デフォルトの管理者ログイン `asm_admin`、およびパスワード `password` を使ってログインします。

パスワードを変更するよう求められます。既存のパスワードを入力することもできますが、セキュリティのために新しいパスワードを選択してください。

デフォルトのホーム・ページはダッシュボードですが、後でこれを構成します。

3. 「設定」メニューの下で「ユーザー」、「ユーザー・グループ」、「ユーザー権限」の各ページを調べて、「*Marketing Platform* 管理者ガイド」で説明されている構成済みユーザー、グループ、役割、および権限が存在することを確認します。
4. 新しいユーザーとグループを追加して、そのデータが *Marketing Platform* システム・テーブル・データベースに入力されたことを確認します。
5. 「設定」メニューの下で「構成」ページを調べて、*Marketing Platform* の構成プロパティが存在することを確認します。

さらに、追加の構成タスクがあります。ダッシュボードの構成、IBM アプリケーションへのユーザー・アクセスのセットアップ、LDAP または Web アクセス制御システムとの統合 (オプション) などです。「*IBM Marketing Platform* 管理者ガイド」の説明を参照してください。

第 6 章 配置後の Marketing Platform の構成

Marketing Platform の基本インストールにおいて、IBM EMM レポート機能を使用している場合、またはパスワード・ポリシーを使用する場合には、配置後に Marketing Platform を構成する必要があります。

IBM EMM レポート機能を使用している場合は、「*IBM EMM Reports* インストールおよび構成ガイド」を参照してください。パスワード・ポリシーの使用を考慮している場合、デフォルト・パスワード設定を変更する必要があるかどうか判別するには、『デフォルトのパスワード設定』を参照してください。

Marketing Platform の「構成」ページにある追加的なプロパティを使用すると、オプションとして調整可能なさまざまな重要な機能を実行することができます。これらの機能について、および設定方法については、プロパティのコンテキスト・ヘルプまたは「*IBM Marketing Platform* 管理者ガイド」を参照してください。

デフォルトのパスワード設定

IBM EMM には、パスワードを使用するためのデフォルト設定が備わっています。ただし、IBM EMM の「構成」ページで「**IBM EMM**」>「全般」>「パスワード設定」カテゴリを使用すると、デフォルト設定の変更が可能で、独自のパスワード・ポリシーを作成できます。

デフォルトのパスワード設定は、IBM EMM で作成されたユーザーのパスワードに適用されます。この設定は、外部システムとの同期を介してインポートされたユーザー（例えば Windows Active Directory、サポート対象 LDAP ディレクトリー・サーバー、または Web アクセス制御サーバーの内部ユーザー）には適用されません。例外は許可されるログイン再試行の最大回数設定で、この設定は内部ユーザーと外部ユーザーの両方に影響を及ぼします。またこのプロパティは、外部システムの同様の制約事項を無効にするわけではありません。

以下の設定は、IBM EMM でのデフォルトのパスワード設定です。

- 許可されるログイン再試行の最大回数 - 3
- パスワード履歴の数 - 0
- 有効期間（日数） - 30
- 空白のパスワードを許可 - True
- ユーザー名と同じパスワードを許可 - True
- 最小限必要な数字の数 - 0
- 最小限必要な英字の数 - 0
- 最小限必要なパスワードの長さ - 4

これらのデフォルト設定の説明については、オンライン・ヘルプを参照してください。

第 7 章 Marketing Platform ユーティリティーについて

このセクションでは、Marketing Platform の概要を示します。これには、すべてのユーティリティーに当てはまり、個別のユーティリティーの説明では扱われていない詳細が含まれます。

ユーティリティーの場所

Marketing Platform ユーティリティーは、Marketing Platform インストールの下の `tools/bin` ディレクトリーにあります。

ユーティリティーのリストと説明

Marketing Platform は、以下のユーティリティーを提供します。

- 44 ページの『`configTool` ユーティリティー』 - 構成設定 (製品の登録を含む) のインポート、エクスポート、および削除を行います。
- 48 ページの『`alertConfigTool` ユーティリティー』 - IBM EMM 製品のアラートと構成を登録します。
- 49 ページの『`datafilteringScriptTool` ユーティリティー』 - データ・フィルターを作成します。
- 50 ページの『`encryptPasswords` ユーティリティー』 - パスワードを暗号化および保管します。
- 52 ページの『`partitionTool` ユーティリティー』 - パーティションのデータベース・エントリーを作成します。
- 54 ページの『`populateDb` ユーティリティー』 - Marketing Platform データベースにデータを設定します。
- 55 ページの『`restoreAccess` ユーティリティー』 - ユーザーに `platformAdminRole` 役割を復元します。
- 57 ページの『`scheduler_console_client` ユーティリティー』 - トリガーを `listen` するように構成されている IBM EMM のスケジューラー・ジョブをリストまたは開始します。

Marketing Platform ユーティリティーを実行するための前提条件

以下は、すべての Marketing Platform ユーティリティーを実行するための前提条件です。

- すべてのユーティリティーは、それらが存在するディレクトリー (デフォルトでは、Marketing Platform インストールの下の `tools/bin` ディレクトリー) から実行します。
- UNIX では、ベスト・プラクティスは、Marketing Platform が配置されているアプリケーション・サーバーを実行するユーザー・アカウントと同じユーザー・アカウントでユーティリティーを実行することです。異なるユーザー・アカウントでユーティリティーを実行する場合、`platform.log` ファイルの権限を調整して、そのユーザー・アカウントがこのファイルに書き込めるようにします。権限を調整

しないと、ユーティリティーはログ・ファイルに書き込むことができず、ツールは正しく機能しているのにエラー・メッセージが表示される可能性があります。

接続の問題のトラブルシューティング

encryptPasswords を除くすべての Marketing Platform ユーティリティーは、Marketing Platform システム・テーブルと対話します。システム・テーブル・データベースに接続するために、これらのユーティリティーは以下の接続情報を使用します。この情報は、Marketing Platform のインストール時に提供される情報を使ってインストーラーによって設定されます。この情報は、Marketing Platform インストールの下の tools/bin ディレクトリーにある jdbc.properties ファイルに保管されます。

- JDBC ドライバー名
- JDBC 接続 URL (ホスト、ポート、およびデータベース名を含む)
- データ・ソース・ログイン
- データ・ソース・パスワード (暗号化)

さらに、これらのユーティリティーは、Marketing Platform のインストール済み環境の tools/bin ディレクトリーにある setenv スクリプトまたはコマンド行で設定された、JAVA_HOME 環境変数に依存しています。この変数は Marketing Platform インストーラーによって setenv スクリプトで自動的に設定されるはずですが、ユーティリティーの実行に問題がある場合は JAVA_HOME 変数が設定されていることを確認することをお勧めします。JDK は Sun バージョンでなければなりません (例えば WebLogic で入手できる JRockit JDK は不可です)。

特殊文字

オペレーティング・システムで予約文字として指定されている文字は、エスケープする必要があります。予約文字のリストおよびそれをエスケープする方法については、オペレーティング・システムの資料を参照してください。

Marketing Platform ユーティリティーの標準オプション

すべての Marketing Platform ユーティリティーで、以下のオプションを使用できます。

-l logLevel

コンソールに表示されるログ情報のレベルを設定します。オプションは、high、medium、および low です。デフォルトは low です。

-L

コンソール・メッセージのロケールを設定します。デフォルト・ロケールは en_US です。使用可能なオプション値は、Marketing Platform が翻訳されている言語に依存します。ISO 639-1 および ISO 3166 に応じて、ICU ロケール ID を使ってロケールを指定します。

-h

使用法に関する簡潔なメッセージをコンソールに表示します。

-m

このユーティリティのマニュアル・ページをコンソールに表示します。

-v

実行の詳細をコンソールに表示します。

追加マシンでの Marketing Platform ユーティリティの実行

Marketing Platform がインストールされているマシンでは、追加の構成を行わずに Marketing Platform ユーティリティを実行することができます。しかし、ユーティリティをネットワーク上の別のマシンから実行することもできます。この手順では、それを行うために必要なステップについて説明します。

追加マシンで Marketing Platform ユーティリティをセットアップする方法

1. この手順を実行するマシンが以下の前提条件を満たしていることを確認してください。
 - 正しい JDBC ドライバーがマシンに存在しているか、マシンからアクセス可能でなければなりません。
 - マシンに Marketing Platform システム・テーブルへのネットワーク・アクセスがなければなりません。
 - マシンに Java ランタイム環境がインストールされているか、マシンからアクセス可能でなければなりません。
2. Marketing Platform システム・テーブルに関する以下の情報を収集します。
 - JDBC ドライバー・ファイルのシステム上の完全修飾パス。
 - Java ランタイム環境のインストール先への完全修飾パス。

インストーラーでのデフォルト値は、IBM のインストール・ディレクトリーの下にインストーラーが置いた、サポートされるバージョンの JRE へのパスです。このデフォルトを受け入れることも、別のパスを指定することもできます。

- データベース・タイプ
 - データベース・ホスト
 - データベース・ポート
 - データベース名/システム ID
 - データベース・ユーザー名
 - データベース・パスワード
3. IBM インストーラーを実行して、Marketing Platform をインストールします。

Marketing Platform システム・テーブルに関して収集したデータベース接続情報を入力します。IBM インストーラーに精通していない場合は、「Campaign インストール・ガイド」または「Marketing Operations インストール・ガイド」を参照してください。

Marketing Platform Web アプリケーションは、配置する必要ありません。

configTool ユーティリティー

「構成」ページのプロパティと値は、システム・テーブルに保管されます。configTool ユーティリティーを使用すると、システム・テーブルとの間で構成設定のインポートおよびエクスポートが行えます。

configTool を使用する場合

configTool を使用する理由として、以下が考えられます。

- Campaign に付属のパーティションおよびデータ・ソースのテンプレートをインポートする場合。その後、「構成」ページを使用してこれらのテンプレートを変更したり複製したりできます。
- 製品インストーラーがプロパティをデータベースに自動的に追加できない場合に IBM EMM 製品を登録する (その構成プロパティをインポートする)。
- バックアップのため、または IBM EMM の別のインストールにインポートするために、構成設定の XML バージョンをエクスポートする。
- 「**カテゴリの削除**」リンクを持たないカテゴリを削除する。この操作を行うには、configTool を使用して構成をエクスポートした後、カテゴリを作成する XML を手動で削除し、編集した XML を configTool を使用してインポートします。

重要: このユーティリティーは、Marketing Platform システム・テーブル・データベースの `usm_configuration` および `usm_configuration_values` テーブルを変更します。これには、構成プロパティとその値が含まれます。最良の結果を得るために、それらのテーブルのバックアップ・コピーを作成するか、configTool を使用して既存の構成をエクスポートし、生成されるファイルをバックアップしてください。そうすることで、configTool を使用したインポートに失敗した場合に、構成を復元することができます。

構文

```
configTool -d -p "elementPath" [-o]
```

```
configTool -i -p "parent ElementPath" -f importFile [-o]
```

```
configTool -x -p "elementPath" -f exportFile
```

```
configTool -vp -p "elementPath" -f importFile [-d]
```

```
configTool -r productName -f registrationFile [-o] configTool -u  
productName
```

コマンド

```
-d -p "elementPath" [o]
```

構成プロパティ階層内のパスを指定して、構成プロパティとその設定を削除します。

要素のパスでは、カテゴリおよびプロパティの内部名を使用する必要があります。これらの内部名は、「構成」ページに移動して、目的のカテゴリまたはプロパティを選択し、右側のペインの括弧内に表示されるパスを調べることで得ることができます。 | 文字を使用して構成プロパティの階層内のパスを区切り、そのパスを二重引用符で囲みます。

次のことに注意してください。

- このコマンドを使用して削除できるのは、アプリケーション全体ではなく、アプリケーション内のカテゴリおよびプロパティのみです。アプリケーション全体を登録解除するには、`-u` コマンドを使用します。
- 「構成」ページに「**カテゴリの削除**」リンクのないカテゴリを削除するには、`-o` オプションを使用します。

`-vp` コマンドとともに `-d` を使用すると、指定のパス内にある下位ノードがユーザーの指定した XML ファイルに含まれていない場合、`configTool` はそれらのノードを削除します。

`-i -p "parentElementPath" -f importFile [o]`

指定された XML ファイルから構成プロパティとその設定をインポートします。

インポートするには、カテゴリ・インポート先の上の親要素へのパスを指定します。`configTool` ユーティリティーは、パスで指定されたカテゴリの下のプロパティをインポートします。

カテゴリは最上位より下のどのレベルにでも追加できますが、最上位カテゴリと同じレベルに追加することはできません。

親要素のパスでは、カテゴリおよびプロパティの内部名を使用する必要があります。これらの内部名は、「構成」ページに移動して、必要なカテゴリまたはプロパティを選択し、右側のペインの括弧内に表示されるパスを調べることで得ることができます。 | 文字を使用して構成プロパティの階層内のパスを区切り、そのパスを二重引用符で囲みます。

インポート・ファイルの場所は、`tools/bin` ディレクトリーからの相対パスで指定することも、完全ディレクトリー・パスで指定することもできます。相対パスを指定するかパスを指定しない場合、`configTool` はまず `tools/bin` ディレクトリーに相対するファイルを探します。

デフォルトではこのコマンドは既存のカテゴリを上書きしませんが、`-o` オプションを使用して上書きを強制することができます。

`-x -p "elementPath" -f exportFile`

構成プロパティとその設定を、指定された名前の XML ファイルにエクスポートします。

構成プロパティをすべてエクスポートすることも、構成プロパティ階層内のパスを指定することによってエクスポートを特定のカテゴリに制限することもできます。

要素のパスには、カテゴリとプロパティの内部名を使用する必要があります。これらの内部名は、「構成」 ページに移動して、目的のカテゴリまたはプロパティを選択し、右側のペインの括弧内に表示されるパスを調べることによって得ることができます。 | 文字を使用して構成プロパティの階層内のパスを区切り、そのパスを二重引用符で囲みます。

エクスポート・ファイルの場所は、現行ディレクトリーからの相対パスで指定することも、完全ディレクトリー・パスで指定することもできます。ファイル指定に区切り文字 (UNIX の場合は /、Windows の場合は \ または ¥) が含まれていない場合、configTool は Marketing Platform インストール済み環境の tools/bin ディレクトリーにファイルを書き込みます。xml 拡張子を指定しなくても、configTool はそれを追加します。

-vp -p "elementPath" -f importFile [-d]

このコマンドは、主に手動によるアップグレードで、構成プロパティをインポートするために使用します。新しい構成プロパティを含んだフィックスパックを適用した後で、手動によるアップグレード・プロセスの一環として構成ファイルをインポートしてアップグレードした場合、フィックスパック適用時に設定した値がオーバーライドされる可能性があります。-vp コマンドを使用すると、前に設定した構成値がインポートによってオーバーライドされることがありません。

重要: -vp オプションを指定して configTool ユーティリティーを使用した後で、変更を適用するために、Marketing Platform が配置されている Web アプリケーション・サーバーを再始動する必要があります。

-vp コマンドとともに -d を使用すると、指定のパス内にある下位ノードがユーザーの指定した XML ファイルに含まれていない場合、configTool はそれらのノードを削除します。

-r productName -f registrationFile

アプリケーションを登録します。登録ファイルの場所は、tools/bin ディレクトリーからの相対位置にすることも、絶対パスにすることもできます。デフォルトではこのコマンドは既存の構成を上書きしませんが、-o オプションを使用して上書きを強制することができます。productName パラメーターは、上記にリストされている名前のいずれかでなければなりません。

次のことに注意してください。

- -r コマンドを使用する場合、登録ファイルの XML の最初のタグは <application> でなければなりません。

そのほかにも、Marketing Platform データベースに構成プロパティを挿入するために使用できるファイルが製品に付属している場合があります。これらのファイルについては、-i コマンドを使用します。-r コマンドで使用できるファイルは、最初のタグが <application> タグであるファイルのみです。

- Marketing Platform の登録ファイルの名前は Manager_config.xml で、最初のタグは <Suite> です。このファイルを新しいインストール済み環境に登録するには、

「*IBM Marketing Platform インストール・ガイド*」の説明に従って、`populateDb` ユーティリティを使用するか、`Marketing Platform` インストーラーを再実行します。

- 初回インストール後に、`Marketing Platform` 以外の製品を再登録するには、`-r` コマンドおよび `-o` を指定した `configTool` を使用して、既存のプロパティを上書きします。

`configTool` ユーティリティは、製品を登録および登録解除するコマンドで、パラメーターとして製品名を使用します。IBM EMM リリース 8.5.0 では、多くの製品名が変更されました。ただし、`configTool` によって認識される名前の変更されていません。以下に、`configTool` で使用する有効な製品名、および製品の現行名をリストします。

表 15. `configTool` 登録および登録解除用の製品名

製品名	<code>configTool</code> で使用する名前
Marketing Platform	Manager
Campaign	Campaign
Distributed Marketing	Collaborate
eMessage	emessage
Interact	interact
Contact Optimization	Optimize
Marketing Operations	Plan
CustomerInsight	Insight
Digital Analytics for On Premises	NetInsight
Opportunity Detection	Detect
Leads	Leads
Interaction History	InteractionHistory
Attribution Modeler	AttributionModeler
IBM SPSS Modeler Advantage Enterprise Marketing Management Edition	SPSS
Digital Analytics	Coremetrics

-u *productName*

productName で指定したアプリケーションを登録解除します。製品カテゴリーのパスを含める必要はありません。製品名で十分です (製品名は必須)。このプロセスで、製品のすべてのプロパティと構成設定が削除されます。

オプション

-o

`-i` または `-r` と共に使用した場合は、既存のカテゴリーまたは製品登録 (ノード) を上書きします。

`-d` と共に使用した場合は、「構成」ページに「**カテゴリーの削除**」リンクがないカテゴリー (ノード) を削除できます。

例

- Marketing Platform インストール済み環境下の `conf` ディレクトリー内にある `Product_config.xml` という名前のファイルから、構成設定をインポートします。

```
configTool -i -p "Affinium" -f Product_config.xml
```

- 提供されている Campaign データ・ソース・テンプレートのいずれかをデフォルトの Campaign パーティション `partition1` にインポートします。この例では、Oracle データ・ソース・テンプレート `OracleTemplate.xml` が Marketing Platform インストールの下の `tools/bin` ディレクトリーに置かれていることが前提です。

```
configTool -i -p "Affinium|Campaign|partitions|partition1|dataSources" -f OracleTemplate.xml
```

- `D:%backups` ディレクトリーにある `myConfig.xml` という名前のファイルに、すべての構成設定をエクスポートします。

```
configTool -x -f D:%backups%myConfig.xml
```

- 既存の Campaign パーティション (データ・ソース・エントリーを備えている) をエクスポートし、ファイル `partitionTemplate.xml` に保存し、Marketing Platform インストールの下のデフォルトの `tools/bin` ディレクトリーに保管します。

```
configTool -x -p "Affinium|Campaign|partitions|partition1" -f partitionTemplate.xml
```

- Marketing Platform のインストール済み環境下のデフォルトの `tools/bin` ディレクトリー内にある `app_config.xml` という名前のファイルを使用して、`productName` という名前のアプリケーションを手動で登録し、このアプリケーションの既存の登録を強制的に上書きします。

```
configTool -r product Name -f app_config.xml -o
```

- アプリケーション `productName` を登録解除します。

```
configTool -u productName
```

alertConfigTool ユーティリティー

通知タイプは、さまざまな IBM EMM 製品に固有のものです。インストール時またはアップグレード時にインストーラーが自動的に通知タイプを登録しなかった場合は、`alertConfigTool` ユーティリティーを使用して登録してください。

構文

```
alertConfigTool -i -f importFile
```

コマンド

-i -f *importFile*

指定した XML ファイルからアラートと通知のタイプをインポートします。

例

- Marketing Platform インストール済み環境の `tools\bin` ディレクトリーにある `Platform_alerts_configuration.xml` という名前のファイルからアラートと通知のタイプをインポートします。

```
alertConfigTool -i -f Platform_alerts_configuration.xml
```

datafilteringScriptTool ユーティリティー

datafilteringScriptTool ユーティリティーは、XML ファイルを読み取って、Marketing Platform システム・テーブル・データベースのデータ・フィルター・テーブルにデータを設定します。

XML をどのように書くかに応じて、このユーティリティーには使用方法が 2 とおりあります。

- XML 要素の 1 つのセットを使用して、フィールド値の一意の組み合わせに基づいてデータ・フィルター (一意の組み合わせごとに 1 つのデータ・フィルター) を自動生成します。
- XML 要素の若干異なるセットを使用して、ユーティリティーによって作成される各データ・フィルターを指定することができます。

XML の作成について詳しくは、「*IBM Marketing Platform 管理者ガイド*」を参照してください。

datafilteringScriptTool を使用する場合

datafilteringScriptTool は、新規データ・フィルターを作成するときに使用する必要があります。

前提条件

Marketing Platform を配置し、実行しておく必要があります。

SSL との datafilteringScriptTool の使用

片方向 SSL を使用して Marketing Platform を配置している場合、datafilteringScriptTool スクリプトを変更し、ハンドシェークを実行する SSL オプションを追加する必要があります。スクリプトを変更するには、以下の情報が必要です。

- トラストストア・ファイル名とパス
- トラストストア・パスワード

テキスト・エディターで、datafilteringScriptTool スクリプト (`.bat` または `.sh`) を開き、次のような行を見つけます (例は Windows バージョンの場合)。

```
:callexec
```

```
"%JAVA_HOME%\bin\java" -DUNICA_PLATFORM_HOME="%UNICA_PLATFORM_HOME%"
```

```
com.unica.management.client.datafiltering.tool.DataFilteringScriptTool %*
```

この行を次のように編集します (新規テキストが太字で示します)。
myTrustStore.jks および myPassword は、ご自分のトラストストア・パスとファイル名およびトラストストア・パスワードに置き換えてください。

```
:callexec

SET SSL_OPTIONS=-Djavax.net.ssl.keyStoreType="JKS"

-Djavax.net.ssl.trustStore="C:¥security¥myTrustStore.jks"

-Djavax.net.ssl.trustStorePassword=myPassword

"%JAVA_HOME¥bin¥java" -DUNICA_PLATFORM_HOME="%UNICA_PLATFORM_HOME%"
%SSL_OPTIONS%

com.unica.management.client.datafiltering.tool.DataFilteringScriptTool %*
```

構文

```
datafilteringScriptTool -r pathfile
```

コマンド

```
-r path_file
```

指定された XML ファイルからデータ・フィルターの仕様をインポートします。インストールの下の tools/bin ディレクトリーにファイルがない場合、パスを指定し、*path_file* パラメーターを二重引用符で囲みます。

例

- C:¥unica¥xml ディレクトリーにあるファイル collaborateDataFilters.xml を使用して、データ・フィルター・システム・テーブルにデータを設定します。

```
datafilteringScriptTool -r "C:¥unica¥xml¥collaborateDataFilters.xml"
```

encryptPasswords ユーティリティー

encryptPasswords ユーティリティーは、Marketing Platform が使用する以下の 2 つのパスワードのうちのいずれかを暗号化して保管するために使用します。

- Marketing Platform がシステム・テーブルにアクセスするために使用するパスワード。このユーティリティーは、既存の暗号化パスワード (Marketing Platform インストールの下の tools¥bin ディレクトリーにある jdbc.properties ファイルに保管されている) を新規パスワードで置き換えます。
- Marketing Platform または Web アプリケーション・サーバーによって提供されるデフォルトの証明書以外の証明書で SSL を一緒に使用するよう構成されたときに、Marketing Platform によって使用される鍵ストア・パスワード。証明書は、自己署名証明書か認証局からの証明書のいずれかになります。

encryptPasswords を使用する場合

encryptPasswords は、以下の理由で使用します。

- Marketing Platform システム・テーブル・データベースにアクセスするために使用されるアカウントのパスワードを変更する場合。
- 自己署名証明書を作成したとき、または認証局から証明書を取得した場合。

前提条件

- `encryptPasswords` を実行して新規データベース・パスワードを暗号化して保管する前に、Marketing Platform インストールの下の `tools/bin` ディレクトリーにある `jdbc.properties` ファイルのバックアップ・コピーを作成しておきます。
- `encryptPasswords` を実行して鍵ストア・パスワードを暗号化して保管する前に、デジタル証明書を作成または取得し、鍵ストア・パスワードを覚えておく必要があります。

その他の前提条件は、41 ページの『第 7 章 Marketing Platform ユーティリティーについて』を参照してください。

構文

```
encryptPasswords -d databasePassword
```

```
encryptPasswords -k keystorePassword
```

コマンド

-d *databasePassword*

データベース・パスワードを暗号化します。

-k *keystorePassword*

鍵ストア・パスワードを暗号化し、ファイル `pfile` に保管します。

例

- Marketing Platform をインストールした時に、システム・テーブル・データベース・アカウントのログインが `myLogin` に設定されています。インストール後のある時に、このアカウントのパスワードを `newPassword` に変更します。
`encryptPasswords` を以下のように実行し、データベース・パスワードを暗号化して保管します。

```
encryptPasswords -d newPassword
```

- SSL を使用するように IBM EMM アプリケーションを構成し、デジタル証明書を作成または取得しました。`encryptPasswords` を以下のように実行し、鍵ストア・パスワードを暗号化および保管します。

```
encryptPasswords -k myPassword
```

partitionTool ユーティリティー

パーティションは Campaign ポリシーおよび役割と関連付けられます。これらのポリシーおよび役割、およびそのパーティションとの関連付けは Marketing Platform システム・テーブルに保管されます。partitionTool ユーティリティーは、パーティションの基本ポリシーおよび役割情報で Marketing Platform システム・テーブルをシードします。

partitionTool を使用する場合

作成するパーティションごとに、partitionTool を使用して、基本ポリシーおよび役割情報で Marketing Platform システム・テーブルをシードする必要があります。

Campaign での複数パーティションの設定については、ご使用のバージョンの Campaign に該当するインストール・ガイドを参照してください。

特殊文字とスペース

パーティションの説明、またはユーザー、グループ、あるいはパーティションの名前にスペースが含まれる場合、それらを二重引用符で囲む必要があります。

追加の制限については、41 ページの『第 7 章 Marketing Platform ユーティリティーについて』を参照してください。

構文

```
partitionTool -c -s sourcePartition -n newPartitionName [-u  
admin_user_name] [-d partitionDescription] [-g groupName]
```

コマンド

partitionTool ユーティリティーでは、以下のコマンドを使用できます。

-c

-s オプションを使用して指定する既存のパーティションのポリシーおよび役割を複製 (クローンを作成) し、**-n** オプションを使用して指定する名前を使用します。これらのオプションはどちらも **c** で必要です。このコマンドは、以下を行います。

- Campaign で、管理役割ポリシーとグローバル・ポリシーの両方に管理者の役割を持つ新規 IBM EMM ユーザーを作成します。指定するパーティション名は、このユーザーのパスワードとして自動的に設定されます。
- 新規 Marketing Platform グループを作成し、新規管理ユーザーをそのグループのメンバーにします。
- 新規パーティション・オブジェクトを作成します。
- ソース・パーティションに関連付けられているすべてのポリシーを複製し、それらを新規パーティションに関連付けます。
- 複製されるポリシーごとに、そのポリシーに関連付けられているすべての役割を複製します。
- 複製される役割ごとに、ソース役割でマップされた方法と同じ方法ですべての機能をマップします。

- 新規 Marketing Platform グループを、役割の複製時に作成される最後のシステム定義の管理役割に割り当てます。デフォルト・パーティション `partition1` を複製する場合、この役割はデフォルトの管理役割 (管理) になります。

オプション

-d *partitionDescription*

オプション。-c と共にのみ使用されます。-list コマンドからの出力に表示される説明を指定します。256 文字以下でなければなりません。説明にスペースが含まれる場合は二重引用符で囲みます。

-g *groupName*

オプション。-c と共にのみ使用されます。ユーティリティーによって作成される Marketing Platform 管理グループの名前を指定します。名前は、この Marketing Platform のインスタンス内で固有でなければなりません。

定義されない場合、名前はデフォルトの `partition_nameAdminGroup` になります。

-n *partitionName*

-list ではオプションで、-c では必須です。32 文字以下でなければなりません。

-list と共に使用する場合、情報をリストするパーティションを指定します。

-c と共に使用する場合、新規パーティションの名前を指定します。指定するパーティション名は、管理ユーザーのパスワードとして使用されます。パーティション名は、「構成」ページでパーティション・テンプレートを使用して) パーティションを構成したときに付けた名前と一致する必要があります。

-s *sourcePartition*

必須。-c とのみ使用されます。複製されるソース・パーティションの名前。

-u *adminUserName*

オプション。-c と共にのみ使用されます。複製されるパーティションの管理ユーザーのユーザー名を指定します。名前は、この Marketing Platform のインスタンス内で固有でなければなりません。

定義されない場合、名前はデフォルトの `partitionNameAdminUser` になります。

パーティション名は、このユーザーのパスワードとして自動的に設定されます。

例

- 以下の特性を持つパーティションを作成します。
 - `partition1` から複製
 - パーティション名は `myPartition`
 - デフォルト名 (`myPartitionAdminUser`) およびパスワード (`myPartition`) を使用
 - デフォルト・グループ名 (`myPartitionAdminGroup`) を使用

- 説明は「ClonedFromPartition1」

```
partitionTool -c -s partition1 -n myPartition -d "ClonedFromPartition1"
```

- 以下の特性を持つパーティションを作成します。

- partition1 から複製

- パーティション名は partition2

- ユーザー名 customerA を指定し、自動的に割り当てられるパスワード partition2 を使用

- グループ名 customerAGroup を指定

- 説明は「PartitionForCustomerAGroup」

```
partitionTool -c -s partition1 -n partition2 -u customerA -g  
customerAGroup -d "PartitionForCustomerAGroup"
```

populateDb ユーティリティ

populateDb ユーティリティは、デフォルト (シード) データを Marketing Platform システム・テーブルに挿入します。

IBM インストーラーは、Marketing Platform および Campaign のデフォルト・データを Marketing Platform システム・テーブルに設定することができます。しかし、会社の方針でインストーラーによるデータベースの変更が許可されていない場合、またはインストーラーが Marketing Platform システム・テーブルに接続できない場合、このユーティリティを使用して Marketing Platform システム・テーブルにデフォルト・データを挿入する必要があります。

Campaign の場合、このデータには、デフォルト・パーティションのセキュリティ役割および権限が含まれます。Marketing Platform の場合、このデータには、デフォルト・パーティションのセキュリティ役割および権限と、デフォルトのユーザーおよびグループが含まれます。

構文

```
populateDb -n productName
```

コマンド

```
-n productName
```

デフォルト・データを Marketing Platform システム・テーブルに挿入します。有効な製品名は Manager (Marketing Platform の場合) および Campaign (Campaign の場合) です。

例

-

Marketing Platform デフォルト・データを手動で挿入します。

```
populateDb -n Manager
```

-

Campaign デフォルト・データを手動で挿入します。

```
populateDb -n Campaign
```

restoreAccess ユーティリティ

restoreAccess ユーティリティは、間違えて PlatformAdminRole 権限を持つすべてのユーザーをロックアウトしてしまった場合や、Marketing Platform にログインすることができなくなった場合に、Marketing Platform へのアクセスを復元するために使用できます。

restoreAccess を使用する場合

restoreAccess は、このセクションで説明されている 2 つの状況下で使用できます。

PlatformAdminRole ユーザーが無効になっている

Marketing Platform の PlatformAdminRole 権限を持つすべてのユーザーがシステムで無効になる可能性があります。以下に、platform_admin ユーザー・アカウントがどのように無効になるかを示す例を示します。PlatformAdminRole 権限を持つユーザーが 1 人 (platform_admin ユーザー) だけであるとします。「構成」ページの「全般 | パスワード設定」カテゴリの「許可されるログイン再試行の最大回数」プロパティが 3 に設定されており、platform_admin としてログインを試みているユーザーが間違ったパスワードを連続 3 回入力するとします。このログイン試行の失敗が原因で、platform_admin アカウントはシステム内で無効になります。

この場合、restoreAccess を使用すると、Web インターフェースにアクセスせずに、PlatformAdminRole 権限を持つユーザーを Marketing Platform システム・テーブルに追加することができます。

このように restoreAccess を実行すると、このユーティリティは、指定したログイン名とパスワードおよび PlatformAdminRole 権限を持つユーザーを作成します。

指定したユーザー・ログイン名が内部ユーザーとして Marketing Platform に存在する場合、そのユーザーのパスワードが変更されます。

ログイン名 PlatformAdmin および PlatformAdminRole 権限を持つユーザーだけが、例外なくすべてのダッシュボードを管理することができます。そのため、platform_admin ユーザーが無効になっていて、restoreAccess によってユーザーを作成する場合、ログインとして platform_admin を持つユーザーを作成する必要があります。

Active Directory 統合の構成が不適切である

構成が不適切な Windows Active Directory 統合を実装してログインできなくなった場合、restoreAccess を使用して、ログインを行えるようにします。

このように restoreAccess を実行すると、このユーティリティは、「Platform | セキュリティー | ログイン方法」プロパティの値を「Windows 統合ログイン」から「Marketing Platform」に変更します。この変更により、ロックアウトされる前に存在していたユーザー・アカウントを使ってログインできるようになります。

オプションで、新規ログイン名およびパスワードを指定することもできます。このように `restoreAccess` ユーティリティーを使用する場合、Marketing Platform が配置されている Web アプリケーション・サーバーを再始動する必要があります。

パスワードに関する考慮事項

`restoreAccess` を使用する際は、パスワードに関する以下の点に注意してください。

- `restoreAccess` ユーティリティーでは空のパスワードがサポートされておらず、パスワード規則は適用されません。
- 使用中のユーザー名を指定すると、そのユーザーのパスワードはユーティリティーによってリセットされます。

構文

```
restoreAccess -u loginName -p password
```

```
restoreAccess -r
```

コマンド

-r

-u *loginName* オプションを指定せずに使用した場合は、「Platform | セキュリティー | ログイン方法」プロパティーの値を Marketing Platform にリセットします。有効にするには Web アプリケーション・サーバーを再始動する必要があります。

-u *loginName* オプションとともに使用すると、PlatformAdminRole ユーザーが作成されます。

オプション

-u *loginName*

PlatformAdminRole 権限を持ち、指定されたログイン名のユーザーを作成します。**-p** オプションとともに使用する必要があります。

-p *password*

作成するユーザーのパスワードを指定します。 **-u** で必要です。

例

- PlatformAdminRole 権限を持つユーザーを作成します。ログイン名は `tempUser` で、パスワードは `tempPassword` です。

```
restoreAccess -u tempUser -p tempPassword
```

- ログイン方法の値を「IBM Marketing Platform」に変更し、PlatformAdminRole 特権を持つユーザーを作成します。ログイン名は `tempUser` で、パスワードは `tempPassword` です。

```
restoreAccess -r -u tempUser -p tempPassword
```

scheduler_console_client ユーティリティ

IBM EMM スケジューラーで構成されるジョブがトリガーを listen するようにセットアップされている場合、このユーティリティによってジョブをリストし、開始することができます。

SSL が有効な場合の処置

SSL を使用するように Marketing Platform Web アプリケーションが構成されている場合、scheduler_console_client ユーティリティが使用する JVM は、Marketing Platform が配置されている Web アプリケーション・サーバーが使用する SSL 証明書と同じ SSL 証明書を使用する必要があります。

SSL 証明書をインポートするには、以下のステップを実行します。

- scheduler_console_client によって使用される JRE の場所を判別します。
 - JAVA_HOME がシステム環境変数として設定されている場合、それが指す JRE が、scheduler_console_client ユーティリティによって使用される JRE です。
 - JAVA_HOME がシステム環境変数として設定されていない場合、scheduler_console_client ユーティリティは、Marketing Platform インストールの tools/bin ディレクトリーにある setenv スクリプトかコマンド・ラインのいずれかで設定される JRE を使用します。
- Marketing Platform が配置されている Web アプリケーション・サーバーが使用する SSL 証明書を scheduler_console_client が使用する JRE にインポートします。

Sun JDK には、証明書のインポートに使用できる keytool というプログラムが含まれています。このプログラムについて詳しくは、Java の資料を参照してください。あるいは、プログラムを実行するときに -help を入力してヘルプにアクセスしてください。

- テキスト・エディターで tools/bin/schedulerconsoleclient ファイルを開き、以下のプロパティーを追加します。これは、Marketing Platform を配置する Web アプリケーション・サーバーに応じて違います。
 - WebSphere の場合、以下のプロパティーをファイルに追加します。

```
-Djavax.net.ssl.keyStoreType=JKS
```

```
-Djavax.net.ssl.keyStore="鍵ストア JKS ファイルのパス"
```

```
-Djavax.net.ssl.keyStorePassword="鍵ストア・パスワード"
```

```
-Djavax.net.ssl.trustStore="トラストストア JKS ファイルのパス"
```

```
-Djavax.net.ssl.trustStorePassword="トラストストア・パスワード"
```

```
-DisUseIBMSSLSocketFactory=false
```

- WebLogic の場合、以下のプロパティーをファイルに追加します。

```
-Djavax.net.ssl.keyStoreType="JKS"
```

```
-Djavax.net.ssl.trustStore="トラストストア JKS ファイルのパス"
```

```
-Djavax.net.ssl.trustStorePassword="トラストストア・パスワード"
```

証明書が一致しない場合、Marketing Platform ログ・ファイルに以下のようなエラーが入ります。

原因: sun.security.provider.certpath.SunCertPathBuilderException: 要求されているターゲットへの有効な証明書パスが見つかりません (Caused by: sun.security.provider.certpath.SunCertPathBuilderException: unable to find valid certification path to requested target)

前提条件

Marketing Platform がインストール、配置、および実行されている必要があります。

構文

```
scheduler_console_client -v -t trigger_name user_name
```

```
scheduler_console_client -s -t trigger_name user_name
```

コマンド

-v

指定されたトリガーを listen するように構成されているスケジューラー・ジョブをリストします。

-t オプションとともに使用する必要があります。

-s

指定されたトリガーを送信します。

-t オプションとともに使用する必要があります。

オプション

-t *trigger_name*

スケジューラーで構成されるトリガーの名前。

例

- トリガー *trigger1* を listen するように構成されているジョブをリストします。

```
scheduler_console_client -v -t trigger1
```

- トリガー *trigger1* を listen するように構成されているジョブを実行します。

```
scheduler_console_client -s -t trigger1
```

第 8 章 Marketing Platform SQL スクリプトについて

このセクションでは、Marketing Platform システム・テーブルに関する各種タスクを実行するための Marketing Platform で提供されている SQL スクリプトについて説明します。それらのスクリプトは、Marketing Platform システム・テーブルに対して実行されるように設計されています。

Marketing Platform SQL スクリプトは、Marketing Platform インストールの下の db ディレクトリーにあります。

データベース・クライアントを使用して SQL を Marketing Platform システム・テーブルに対して実行する必要があります。

すべてのデータの削除 (ManagerSchema_DeleteAll.sql)

Manager_Schema_DeleteAll.sql スクリプトは、テーブルそのものは削除せずに Marketing Platform システム・テーブルからすべてのデータを削除します。このスクリプトは、すべてのユーザー、グループ、セキュリティ資格情報、データ・フィルター、および構成設定を Marketing Platform から削除します。

ManagerSchema_DeleteAll.sql を使用する場合

破損データによって Marketing Platform のインスタンスが使用できない場合に、ManagerSchema_DeleteAll.sql を使用することもできます。

追加要件

ManagerSchema_DeleteAll.sql の実行後に Marketing Platform を使用可能にするには、以下のステップを実行する必要があります。

- 54 ページの『populateDb ユーティリティ』の説明に従って、populateDB ユーティリティを実行します。populateDB ユーティリティは、デフォルトの構成プロパティ、ユーザー、役割、およびグループを復元しますが、初期インストール後に作成またはインポートしたユーザー、役割、およびグループは復元しません。
- 44 ページの『configTool ユーティリティ』の説明に従って、config_navigation.xml ファイルとともに configTool ユーティリティを使用してメニュー項目をインポートします。
- いずれかのインストール後構成 (データ・フィルターの作成や LDAP サーバーまたは Web アクセス制御プラットフォームとの統合など) を実行している場合、これらの構成を再実行する必要があります。
- 既存のデータ・フィルターを復元する場合、最初に作成された XML を使用してデータ・フィルターを指定し、datafilteringScriptTool ユーティリティを実行します。

データ・フィルターのみの削除 (ManagerSchema_PurgeDataFiltering.sql)

ManagerSchema_PurgeDataFiltering.sql スクリプトは、データ・フィルター・テーブルそのものは削除せずに Marketing Platform システム・テーブルからすべてのデータ・フィルター・データを削除します。このスクリプトは、すべてのデータ・フィルター、データ・フィルター構成、オーディエンス、およびデータ・フィルターの割り当てを Marketing Platform から削除します。

ManagerSchema_PurgeDataFiltering.sql を使用する場合

Marketing Platform システム・テーブルから他のデータは削除せずにすべてのデータ・フィルターを削除する場合に、ManagerSchema_PurgeDataFiltering.sql を使用することもできます。

重要: 「デフォルトのテーブル名」および「デフォルトのオーディエンス名」という 2 つのデータ・フィルター・プロパティの値は

ManagerSchema_PurgeDataFiltering.sql スクリプトによって再設定されません。使用するデータ・フィルターでこれらの値が無効になった場合、「構成」ページでこれらの値を手動で設定する必要があります。

システム・テーブルの作成

会社の方針でインストーラーを使用して Marketing Platform システム・テーブルを自動で作成することが許可されていない場合、以下の表で説明されているスクリプトを使用して手動で作成します。スクリプトは、示されている順序で実行する必要があります。

データ・ソース・タイプ	スクリプト名
IBM DB2	<ul style="list-style-type: none">• ManagerSchema_DB2.sql <p>マルチバイト文字 (例えば、中国語、日本語、または韓国語) をサポートする予定の場合、ManagerSchema_DB2_unicode.sql スクリプトを使用します。</p> <ul style="list-style-type: none">• ManagerSchema__DB2_CeateFKConstraints.sql• active_portlets.sql
Microsoft SQL Server	<ul style="list-style-type: none">• ManagerSchema_SqlServer.sql• ManagerSchema__SqlServer_CeateFKConstraints.sql• active_portlets.sql
Oracle	<ul style="list-style-type: none">• ManagerSchema_Oracle.sql• ManagerSchema__Oracle_CeateFKConstraints.sql• active_portlets.sql

スケジューラー機能 (事前に定義された間隔でフローチャートを実行するように構成することができる) を使用する予定の場合、この機能をサポートするテーブルを

作成する必要もあります。スケジューラー・テーブルを作成するには、以下の表の説明に従って、該当するスクリプトを実行します。

データ・ソース・タイプ	スクリプト名
IBM DB2	quartz_db2.sql
Microsoft SQL Server	quartz_sqlServer.sql
Oracle	quartz_oracle.sql

システム・テーブル作成スクリプトを使用する場合

インストーラーによるシステム・テーブルの自動作成を可能にしていない場合、または `ManagerSchema_DropAll.sql` を使用してすべての Marketing Platform システム・テーブルをデータベースから削除した場合、Marketing Platform をインストールまたはアップグレードするときに、これらのスクリプトを使用する必要があります。

システム・テーブルの削除 (`ManagerSchema_DropAll.sql`)

`ManagerSchema_DropAll.sql` スクリプトは、すべての Marketing Platform システム・テーブルをデータベースから削除します。このスクリプトは、すべてのテーブル、ユーザー、グループ、セキュリティー資格情報、および構成設定を Marketing Platform から削除します。

注: 以前のバージョンの Marketing Platform システム・テーブルが含まれているデータベースに対してこのスクリプトを実行する場合、制約が存在しないことを示すエラー・メッセージをデータベース・クライアントで受け取る可能性があります。これらのメッセージは無視してかまいません。

`ManagerSchema_DropAll.sql` を使用する場合

引き続き使用するテーブルが他に含まれているデータベースにシステム・テーブルがある Marketing Platform のインスタンスをアンインストールした場合に、`ManagerSchema_DropAll.sql` を使用することができます。

追加要件

このスクリプトの実行後に Marketing Platform を使用可能にするには、以下のステップを実行する必要があります。

- 60 ページの『システム・テーブルの作成』の説明に従って、適切な SQL スクリプトを実行し、システム・テーブルを再作成します。
- 54 ページの『populateDb ユーティリティー』の説明に従って、`populateDB` ユーティリティーを実行します。`populateDB` ユーティリティーを実行すると、デフォルトの構成プロパティー、ユーザー、役割、およびグループが復元されますが、初期インストール後に作成またはインポートしたユーザー、役割、およびグループは復元されません。
- 44 ページの『configTool ユーティリティー』の説明に従って、`config_navigation.xml` ファイルとともに `configTool` ユーティリティーを使用してメニュー項目をインポートします。

- いずれかのインストール後構成 (データ・フィルターの作成や LDAP サーバーまたは Web アクセス制御プラットフォームとの統合など) を実行している場合、これらの構成を再実行する必要があります。

第 9 章 Marketing Platform のアンインストール

Marketing Platform アンインストーラーを実行して、Marketing Platform をアンインストールします。Marketing Platform アンインストーラーを実行すると、インストール・プロセスの間に作成されたファイルが削除されます。例えば、構成ファイル、インストーラーの登録情報、およびユーザー・データなどのファイルがコンピューターから削除されます。

IBM EMM 製品のインストール時に、アンインストーラーが `Uninstall_Product` ディレクトリーに含まれます (`Product` は IBM 製品の名前)。Windows の場合、「コントロール パネル」の「プログラムの追加と削除」リストにも項目が追加されません。

アンインストーラーを実行する代わりに手動でインストール・ディレクトリーのファイルを除去した場合、将来、同じ場所に IBM 製品を再インストールしたときに不完全なインストールになる可能性があります。製品をアンインストールしても、製品のデータベースは削除されません。アンインストーラーは、インストール中に作成されたデフォルト・ファイルのみを削除します。インストール後に作成または生成されたファイルは、削除されません。

注: UNIX の場合、Marketing Platform をインストールしたユーザー・アカウントを使用して、アンインストーラーを実行する必要があります。

Marketing Platform をアンインストールするには、以下のタスクを実行します。

1. Marketing Platform Web アプリケーションを配置した場合、WebSphere または WebLogic から Web アプリケーションを配置解除します。
2. WebSphere または WebLogic をシャットダウンします。
3. Marketing Platform に関連するプロセスを停止します。
4. 製品インストール・ディレクトリーに `ddl` ディレクトリーが既存である場合、その `ddl` ディレクトリーに用意されているスクリプトを実行して、システム・テーブル・データベースからテーブルを削除します。
5. 以下のいずれかのステップを実行して Marketing Platform をアンインストールします。
 - `Uninstall_Product` ディレクトリー内にある Marketing Platform アンインストーラーをダブルクリックします。アンインストーラーは、Marketing Platform をインストールする際に使用したモードで実行します。
 - コンソール・モードを使用して Marketing Platform をアンインストールする場合は、コマンド・ライン・ウィンドウで、アンインストーラーが存在するディレクトリーにナビゲートして、次のコマンドを実行します。

`Uninstall_Product -i console`

- サイレント・モードを使用して Marketing Platform をアンインストールする場合は、コマンド・ライン・ウィンドウで、アンインストーラーが存在するディレクトリーにナビゲートして、次のコマンドを実行します。

Uninstall_Product -i silent

サイレント・モードを使用して Marketing Platform をアンインストールする場合、アンインストール・プロセスでは、ユーザーとの対話用のダイアログが表示されません。

注: オプションを指定せずに Marketing Platform をアンインストールすると、Marketing Platform アンインストーラーは Marketing Platform のインストール時に使用されたモードで実行されます。

IBM 技術サポートへの連絡

文書を参照しても解決できない問題があるなら、指定されているサポート窓口を通じて IBM 技術サポートに電話することができます。このセクションの情報を使用するなら、首尾よく効率的に問題を解決することができます。

サポート窓口が指定されていない場合は、IBM 管理者にお問い合わせください。

収集する情報

IBM 技術サポートに連絡する前に、以下の情報を収集しておいてください。

- 問題の性質の要旨。
- 問題発生時に表示されるエラー・メッセージの詳細な記録。
- 問題を再現するための詳しい手順。
- 関連するログ・ファイル、セッション・ファイル、構成ファイル、およびデータ・ファイル。
- 「システム情報」の説明に従って入手した製品およびシステム環境に関する情報。

システム情報

IBM 技術サポートに電話すると、実際の環境に関する情報について尋ねられることがあります。

問題が発生してもログインは可能である場合、情報の大部分は「バージョン情報」ページで入手できます。そのページには、インストールされている IBM のアプリケーションに関する情報が表示されます。

「バージョン情報」ページは、「ヘルプ」>「バージョン情報」を選択することにより表示できます。「バージョン情報」ページを表示できない場合、どの IBM アプリケーションについても、そのインストール・ディレクトリーの下にある `version.txt` ファイルを表示することにより、各アプリケーションのバージョン番号を入手できます。

IBM 技術サポートのコンタクト情報

IBM 技術サポートとの連絡を取る方法については、IBM 製品技術サポートの Web サイト (http://www-947.ibm.com/support/entry/portal/open_service_request) を参照してください。

注: サポート要求を入力するには、IBM アカウントでログインする必要があります。可能な場合、このアカウントは、IBM 顧客番号とリンクされている必要があります。アカウントを IBM 顧客番号に関連付ける方法については、Support Portal の「サポート・リソース」>「ライセンス付きソフトウェア・サポート」を参照してください。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510
東京都中央区日本橋箱崎町19番21号
日本アイ・ビー・エム株式会社
法務・知的財産
知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
170 Tracer Lane
Waltham, MA 02451
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

表示されている IBM の価格は IBM が小売り価格として提示しているもので、現行価格であり、通知なしに変更されるものです。卸価格は、異なる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することが

できます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。これらのサンプル・プログラムは特定物として現存するままの状態を提供されるものであり、いかなる保証も提供されません。IBM は、お客様の当該サンプル・プログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

商標

IBM、IBM ロゴ、および ibm.com は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、www.ibm.com/legal/copytrade.shtml をご覧ください。

プライバシー・ポリシーおよび利用条件の考慮事項

サービス・ソリューションとしてのソフトウェアも含めた IBM ソフトウェア製品（「ソフトウェア・オファリング」）では、製品の使用に関する情報の収集、エンド・ユーザーの使用感の向上、エンド・ユーザーとの対話またはその他の目的のために、Cookie はじめさまざまなテクノロジーを使用することがあります。Cookie とは Web サイトからお客様のブラウザに送信できるデータで、お客様のコンピューターを識別するタグとしてそのコンピューターに保存されることがあります。多くの場合、これらの Cookie により個人情報が収集されることはありません。ご使用の「ソフトウェア・オファリング」が、これらの Cookie およびそれに類するテクノロジーを通じてお客様による個人情報の収集を可能にする場合、以下の具体的な事項を確認ください。

このソフトウェア・オファリングは、展開される構成に応じて、セッション管理、お客様の利便性の向上、または利用の追跡または機能上の目的のために、それぞれのお客様のユーザー名、およびその他の個人情報を、セッションごとの Cookie および持続的な Cookie を使用して収集する場合があります。これらの Cookie は無効にできますが、その場合、これらを有効にした場合の機能を活用することはできません。

Cookie およびこれに類するテクノロジーによる個人情報の収集は、各国の適用法令等による制限を受けます。この「ソフトウェア・オファリング」が Cookie およびさまざまなテクノロジーを使用してエンド・ユーザーから個人情報を収集する機能を提供する場合、お客様は、個人情報を収集するにあたって適用される法律、ガイドライン等を遵守する必要があります。これには、エンドユーザーへの通知や同意取得の要求も含まれますがそれらには限られません。

お客様は、IBM の使用にあたり、(1) IBM およびお客様のデータ収集と使用に関する方針へのリンクを含む、お客様の Web サイト利用条件（例えば、プライバシー・ポリシー）への明確なリンクを提供すること、(2) IBM がお客様に代わり閲覧者のコンピューターに、Cookie およびクリア GIF または Web ビーコンを配置することを通知すること、ならびにこれらのテクノロジーの目的について説明すること、

および (3) 法律で求められる範囲において、お客様または IBM が Web サイトへの閲覧者の装置に Cookie およびクリア GIF または Web ビーコンを配置する前に、閲覧者から合意を取り付けること、とします。

このような目的での Cookie を含むさまざまなテクノロジーの使用については、IBM の『IBM オンラインでのプライバシー・ステートメント』(<http://www.ibm.com/privacy/details/jp/ja/>) の『クッキー、ウェブ・ビーコン、その他のテクノロジー』を参照してください。



Printed in Japan